036429-000-7

82-507

裁判所構成法詳義

多喜沢　秀雄／述

M35

BBR-0082

83
50

講義錄號外

法學士多喜澤秀雄先生述

裁判所構成法詳義

日本同盟法學會出版

三章の法は克く亂秦の緒を收むと雖も以て進文の斯民を牧するに足らす十二銅標は克く法理の淵源を示すも以て二十世記の今日に用ゆべからす世運益々進んで人智愈々啓くるに當ては其人權擁護の政策も從て克く其應要の制を劃せさるへからす之れ律典憲章の繁文を見る所以にして經世の術亦た止むを得さるの數乎而して特に裁判所構成法の如きは民刑の諸典に比し世人或は之を輕視するの感なきにあらさるも其制の完否は直ちに以て民人權利の消長に關するや洵に大なるものなり頃日知友多喜澤學士得意の學識を以て流暢の筆に托し細かに斯法の講述を爲して以て後進初學の津梁と爲さんとす予執て之を見るに講述頓る叮嚀にして文章力めて平易後進研法の資として

は實に世間有數の師友なり今や官私の試驗僉な斯法の科目を見る本書の發刊蓋し時機に適すと謂ふへき歟

明治壬寅初夏於鳴涯僑居　　天外散士　識

目次

緒言……一
本論……八
第一編　裁判所及檢事局……九
第一章　總則……九
第二章　區裁判所……三十五
第三章　地方裁判所……五十二
第四章　控訴院……七十
第五章　大審院……七十九
第二編　裁判所及檢事局ノ官吏……九十二
第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルヽニ必要ナル準備及資格……九十二
第二章　判事……百〇三

第三章　檢事……百十二
第四章　裁判所書記……百二十一
第五章　執達吏……百二十八
第六章　廷丁……百三十三
第三編　司法事務ノ取扱……百三十四
第一章　開廷……百三十五
第二章　裁判所ノ用語……百四十七
第三章　裁判所ノ評議及言渡……百四十九
第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程……百五十六
第五章　司法年度及休暇……百五十七
第六章　法律上ノ共助……百六十三
第四編　司法行政ノ職務及監督權……百六十五
附則……百七十四

裁判所構成法講義

法學士　喜多澤秀雄　稿

緒言

(甲)余輩ハ裁判所構成法ヲ講ズルニ方リ先ヅ以テ司法權トハ如何ナル權力ナルカ裁判所トハ如何ナル機關ナルカヲ說明シ次ヒテ裁判所構成法ノ如何ナル性質ナルカヲ述ベントス

司法權ハ如何ナル權力ナルカヲ說明セントセバ勢ヒ憲法論ニ立入ラザルヲ得サレドモ其迹ナキヲ以テ此ニ簡單ニ其性質ヲ釋明セバ司法權トハ立法權行政權ト同ジク統治權ハ一部分ニ屬スルモノニシテ萬世一系ノ天皇ノ掌握シ給フ所ナリトス決シテ統治權以外ニ獨立シタル權力ニアラズ唯一圓滿ナル統治權ガ働作スルニ方リテハ各別ノ機關ニ依ル其機關ヲ異ニスルニ隨ヒ統治權ノ名稱ヲ異ニス卽チ統治權ガ帝國議會ニ依リテ働作スルトキ

ハ立法權トナリ政府ノ行政官府ニ依リテ働作スルトキハ行政權トナルト同ジク統治權ガ裁判所ト稱スル機關ニ依リテ働作スルトキハ司法權トナル左レバ立法權司法權行政權ト云フハ統治權自體ノ區別ニ非ラズシテ統治權ノ作用ノ區別ナリトス此ノ如ク三個ノ權力ガ各別ノ機關ニ依リ獨立ニ働ラクコトガ近世立憲政體ノ一特色ナリトス古昔ニ於テハ立法ト司法トノ區別ヲ爲サヽリシコトアリ特別ノ事件起ルトキハ其事ニ臨ミテ適宜ノ處置ヲ爲ス恰モ裁判官ガ法ヲ作ルガ如ク又タ立法者ガ裁判スルガ如シ斯ノ如クニシテ豈ニ能ク吾人ノ自由ヲ望ムヲ得ベケンヤ近世ニ於テハ然ラズ一般ニ法律ハ獨立シテ存在シ裁判所ハ單ニ之ヲ適用スルニ止マリ自ラ法ヲ作ルノ權ナシ又タ古昔ハ行政官ヲシテ司法權ヲ行ハシメタルコトアリ此ノ如ンバ遂ニ裁判所ハ政府ガ人民ヲ壓制スルノ具トナルベシ故ニ近世ニ於テハ又タ司法ト行政トヲ區別シ行政權ヲシテ一歩ダモ司法權ノ領域ニ侵入セシメザルヲ期ス要スルニ司法權ハ他ノ立法權行政權ト其機關ヲ異ニシ互ニ獨立シテ働作ス所謂司法權ノ獨立ナルモノハ畢竟此狀態ヲ謂フニ外ナラズ

(二)然ラバ卽チ司法權ノ實質ハ如何法則ヲ適用シ事件ヲ審判スル統治權ノ作用ヲ謂フ詳言スレバ民事刑事ノ事件ヲ法律ニ定メタル手續形式ニ依リ特立ノ裁判所ニ於テ審判スルコトガ司法權ノ作用ナリ蓋シ百般ノ法規アリテ吾人ノ生命身體自由財產ノ保護ニ關スル規定ヲ盡スト雖モ法ハ元ト死物ナリ苟モ之ガ運用ヲ司ル機關ナクンバ金科玉條モ唯ダ一片ノ空文ニ過ギズ刑法ニ於テ如何ニ細密ニ犯罪ヲ規定シ刑罪ヲ科スルモ犯罪者アリテ處罰スルナクンバ世ニ兇惡跡ヲ絕タズ良民ヲシテ其堵ニ安ゼシムル能ハザルベシ民法商法ニ於テ私權關係ニ關スル事項ヲ規定シテ漏ラサズト雖モ權利ヲ侵シ義務ヲ履行セザルモノアリナガラ之ガ救濟ノ途ヲ與ヘザレバ吾人ハ一日モ其財產ヲ賴ミトスル能ハザルニ至ラン是レ實ニ司法權ノ存在スル所以ニシテ司法權一度ビ活動センカ兇惡跡ヲ絕チ吾人ノ分裁立ニ定マルニ至ラン嗚呼司法權ノ存在吾人ノ利害得失ニ關係アルヤ至大ナリト云フベシ

(三)司法權ハ裁判所之ヲ行フ憲法ハ其第五十七條第二項ニ於テ「司法權ハ天皇ノ名ニ於

テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」ト明記ス由是觀之裁判所ハ司法權ヲ行フ權限ヲ有スル憲法上ノ統治機關ナリ其權限ヲ有スルト云フハ單ニ事實上君主ノ補助トシテ司法權ヲ行フニ非ラズシテ司法權ノ行使ニ就キテハ何人ヨリモ制肘セラルヽコトナク自己ノ自由ナル解釋ニ依リ働作スルヲ得ルモノタルコトヲ云フナリ其憲法上ノ統治機關ナリト云フハ裁判所ノ存廢ト權限トハ一ニ憲法ニ因ツテ定マリ大權ヲ以テ之ヲ動スコトヲ得ズ又タ法律ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ザルモノタルヲ云フナリ唯ダ注意スベキハ裁判所構成法以下ノ法律ニ於テ裁判所ト謂フハ此ニ謂フ裁判所ト其意義ヲ異ニスルコト之ナリ構成法以下ノ法律ニテ裁判所ト謂フハ判事ガ其職務ヲ行フ有形ノ事務所ヲ意味シ同法第四條ニ裁判所ノ設立廢止云々ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアルハ裁判所其物ノ設立廢止ヲ法律ニ許ルシタルニアラズ判事ノ事務ヲ執ル事務所ヲ建設シ又ハ廢止スルコトヲ許ルシタルナリ憲法ニ所謂裁判所トハ之ト異ナリ司法權ヲ行フ權限ノ主體ヲ指シ判事ヲ抽象的ニ總稱シタル語ナリ此意味ニテノ裁判所ハ其存廢ハ一ニ憲法ノ規定ニ俟タザルベカラズ又タ裁判所ハ

天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フ天皇ノ名ニ於テトハ別ニ深キ意味アルニアラズ單ニ裁判所ハ天皇ノ統治權ヲ行フ機關タルヿヲ示スニ過ギズ通俗ニ天皇ガ司法權ヲ行フヿヲ裁判所ニ委任シタリトモ云ヒ得ベシ然レドモ法理上ヨリ言ヘバ天皇ガ裁判所ヲシテ司法權ヲ行ハシムルモノナリト言ハザルベカラス歐洲ニテハ我國ト沿革ヲ異ニスルヨリシテ一般ノ觀念トシテ司法權ハ設ヘ名義上ハ君主ニ屬スレドモ之ヲ裁判所ニ委任セラレタルモノナリ讓渡サレタルモノナリトナスヲ以テ特ニ君主ト司法權ヲ結ビ付クル爲メニ天皇ノ名ニ於テ云々ト云フ文例ヲ生ジタルナリ我國ニ於テハ天皇ハ名實共ニ司法權ノ本體ナレバ此語ハ實ニ無用ニ屬ス又タ司法權ハ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フトハ裁判所ガ司法權ヲ行フ形式ト其實質ノ法則トハ法律ニ依リテ行フベク命令ニ依リテ行フモノニ非ルコトヲ謂フニアリ但シ裁判所ハ法律ト名クル成文ノ法則ノ外適用セスト云フ意味ニアラズシテ司法權ヲ行フ方法ハ法律ニ依ルベシト云フニアリテ其司法權行使ノ方法ヲ定ムル法律ニ於テハ法律以外ニ命令規則習慣等ヲ適用スベキコトヲ命ゼラレタル時ハ固ヨリ其等ノ法則ヲ適

用スベキナリ

(四)帝國憲法第五十七條第二項ニ曰ク裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト是レ裁判所ハ臣民ノ生命身體自由財産ニ關スル至大ノ職權ヲ行フモノナルヲ以テ其構成ハ必ラズ法律ヲ以テノミ定ムベク勅令其命令等ヲ以テ之ヲ定ムル能ハズト云フニアリ此規定ニ基キテ生ジタル法律ガ即チ明治二十三年法律第六號ヲ以テ公布セラレタル裁判所構成法ニシテ余輩ガ此ニ講ゼントスルモノ是ナリ而シテ本法ハ其名ノ示スガ如ク裁判所ノ構成ヲ規定スル法律ナリ試言スレバ裁判所及檢事局ノ種類其組織權限判事檢事ノ任用資格其權利義務等ヲ規定ス司法權ノ獨立モ本法ヲ俟チテ愈ヨ鞏固ナルヲ得タリ而ツテ之ヲ法律ノ分類ヨリ言ヘバ國家ノ權力關係ニ關スル事項ヲ規定セルモノナレバ公法ニ屬スルコト明カナリトス

(五)歐洲ニ於ケル司法權發達ノ由來ハ頗ブル興味アル問題ナレドモ我國ノ司法制度ニ何等ノ關係ナキモノナレバ此ニ之ヲ述ベス飜ツテ我國司法制度ハ沿革ヲ見ルニ遠ク大寶令

貞永式目ヲ適用セシ時代ハ暫ラク之ヲ措キ近ク德川氏ニ就キ之ヲ考フルニ裁判所ノ組織ハ各藩區分ニ渉リ幕府ノ中央政府ニ於テハ勘定奉行寺社奉行町奉行ナル裁判機關アリテ何レモ民刑一切ノ事務ヲ司ル唯ダ訴訟關係人ノ身分ニ因リ其管掌ヲ異ニスルノミ此等奉行ノ裁判ニ不服ナレバ老中ニ上訴シ更ラニ進ンデ將軍ノ直裁ヲ請フヲ得タリ而シテ此等奉行ハ何レモ百般ノ行政事務ニモ參與スルモノナレバ當時ハ司法ト行政ノ區別行ハレズ又タ素ヨリ裁判ヲ公行セズ辨護人ヲ許ルサズ況ンヤ裁判官ノ獨立オヤ明治維新ニ至リテハ大ニ歐米ノ制ニ倣ヒ司法制度ノ改革ヲ爲スニ至レリ第一着ニ明治五年ニ大ニ司法ト行政トヲ分離シ初メテ各裁判所ニ檢事ヲ置キ裁判所ヨリ獨立シテ司法警察ノ事務ヲ行ハシメ又タ代言人ノ制ヲ設ケ人民ノ權利伸張ニ盡シ又タ裁判機關トシテ第一司法鄕第二臨時裁判所第三司法省裁判所第四府縣裁判所第五區裁判所ノ五種ノ裁判所ヲ新設セリ司法鄕ノ自ラ裁判スルコトハ其後改メラレ單ニ司法行政事務ノミヲ執ルコトナレリ臨時裁判所ハ上告裁判所ニシテ明治八年五月廢止セラレ代ユルニ常設ノ大審院ヲ以テセリ司法省

裁判所トハ控訴裁判所ニシテ現時ノ控訴院ニ該ル府縣裁判所區裁判所共ニ第一審裁判所ニシテ府縣裁判所ハ後ニ地方裁判所ト改稱セラル明治十三年七月治罪法制定セラレ之ニ因リテ刑事裁判所ノ構成ヲ定メ民事裁判所以外ニ分離セラレタレドモ明治二十三年十月法律第九十六號刑事訴訟法公布セラルヽニ及ビテ右刑事裁判所ヲ民事裁判所以外ニ組織スルノ制ヲ止メテ舊制ニ復シタリ斯ノ如クシテ裁判所ノ構成ニ關スル規定ノ種々ノ法令ニ散在シタルヲ明治十九年五月勅令第四十號裁判所官制成ルニ及ビテ一括シテ規定セラレタリ現行法即明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法ハ其規定スル所ノモノ粗ボ右ノ裁判所官制ニ同ジ大ニ改良ヲ施シタル點ナキニ非レドモ大體ニ於テハ差異アルヲ見ズ而シテ右裁判所官制並ニ現行裁判所構成法ハ共ニ獨逸裁判所構成法ヲ基礎トシ之ニ伊佛等ノ司法制度ヲ參酌シタルモノトス

本論

(六)本法ハ全編通シテ百四十四ヨリ成リ之ヲ四編ニ別チ第一編ニハ裁判所及ビ檢事局ノ組織權限事務ノ分配判事檢事ノ代理等ヲ規定シ第二編ニハ判事檢事資格任命判事檢事ノ補職其權利義務裁判所記書執達吏及ヒ廷丁ノ任命職務等第三編ニハ司法事務ノ取扱第四編ニハ司法行政ノ職務及ヒ監督權ヲ規定セリ講說ノ順序モ亦タ此編次ニ從ヒ逐條講義スベシ是レ讀者ガ法文ノ意義ヲ知ルニ於テ極メテ便宜ノ方法ナレバナリ

第一編　裁判所及檢事局

(七)本編ハ裁判所及ヒ檢事局ノ種類各裁判所各檢事局ノ組織權限等ヲ規定シ全編五章ヨリ成ル而シテ第一章ヲ總則トシ裁判所及ヒ檢事局ノ一般ノ組織ヲ規定シ第二章以下ニ於テ各裁判所及ヒ檢事局ニ特別ナル組織權限ヲ定メタルモノナリ

第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所ヤ簡易裁判所

第二　地方裁判所

第三　控訴院

第四　大審院

(八)裁判所トハ何ゾヤ憲法ニ於テハ判事ヲ總稱シテ抽象的ニ裁判所ト稱シタレドモ此ニ所謂裁判所トハ然ラズ判事ノ執務スル事務所卽チ司法權ノ運用ヲ司ル所ノ官衙ヲ指スモノトス而シテ此司法裁判所ヲ二種ニ區別スルコトヲ得曰ク通常裁判所曰ク特別裁判所是ナリ而シテ本法ハ通常裁判所ノ構成ニ關スル法律ナレハ本條ニハ唯ダ通常裁判所ノ種類名稱ヲ揭ゲタルナリ

通常裁判所ハ其種類ヲ四種ニ分チ第一區裁判所第二地方裁判所第三控訴院第四大審院トス大審院ハ控訴院ノ直近上級裁判所控訴院ハ地方裁判所ノ直近上級裁判所ハ區裁判所ノ

直近上組裁判所ナリ而シテ右各裁判所ハ其組織ト權限トヲ異ニスルコトハ次章以下ニ說明スル所ニ依リテ知ルベシ

(九)裁判所ノ種類ハ右ノ如ク四種ナレドモ審級ノ上ヨリ言ヘバ三審級ニ過ギズ抑モ審級ヲ設ケタルハ裁判ニ鄭重ノ手續ヲ盡サンガ爲メニ層ヲ重ネテ上級ノ裁判所ニ不服ヲ申シ立テシムルニ出デタル者ニシテ我國ニ於テモ歐洲諸國ノ如ク三審級ヲ設ケ第一審ノ裁判ニ不服ナレバ第三審裁判所ニ訴ヘ第一審ハ事實並ニ法律ノ點ニ付裁判シ第二審卽チ控訴審ハ所謂覆審ノ事實並ニ法律ノ點ニ付キ覆審ヲ爲シ第三審卽チ上告審ハ終審ニシテ單ニ法律ノ點ニ付テノミ裁判シ事實ノ點ニ付キテハ裁判セズ此第三審ハ終審ナレバ之ニ對シテハ不服ヲ申立ツルノ途ナシ而シテ通常ハ地方裁判所ガ第二審裁判所ニシテ控訴院ハ第二審裁判所大審院ハ第三審裁判所ナリトス然レドモ特別ノ場合ニ於テハ區裁判所第一審ノ裁判ヲ爲ス此場合ニ於テハ之ニ對スル控訴ハ地方裁判所ニ之ヲ爲シ上告ハ控訴院之ヲ爲スベキモノトス後ニ至リ詳說スベシ

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此限ニ在ラズ

(一〇)通常裁判所ハ如何ナル職務權限ヲ有スルモノナルヤ本條ニ依レバ民事刑事ヲ裁判スベキモノトス然レドモ法律ハ民事刑事ノ如何ナルモノナリヤヲ示サズ蓋シ刑事トハ刑法其他社會刑罰權ノ下ニ於テ處分スベキ事件ヲ云ヒ民事トハ一個人相互ノ間ニ起ル私權ノ法律關係ヲ指シ民法商法其他私法上ニ於ケル權利義務ニ關スル事項ヲ云フモノトス通常裁判所ハ即チ此等一切ノ事項ニ付キ審理判決スルモノトス此点ヨリ云ヘバ彼ノ非訟事件ノ如キ或ハ司法行政ノ事項如キハ固ヨリ通常裁判所ノ管轄ニ屬スベキ性質ノ事項ナラザレドモ立法上特ニ此等ノ事項ヲモ通常裁判所ノ權限ニ屬セシメタリ

(一一)民事刑事ハ一般ニ通常裁判所ニ屬スベキコト右ノ如クナレドモ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此限ニアラズ即チ特別裁判所トハ通常裁判所ト同ジク民事刑事ヲ裁判スル所ナレドモ其事件ハ或ル特別ノ種類ノモノニ限定セラルヽヲ云フ而シテ其限定セラルヽ種類ハ或ハ事件ノ性質ヨリ來ルモノアリ或ハ裁判ヲ受クル者ノ身分ヨリ來ルモノアリ例ヘバ陸海軍々人ノ犯罪ヲ裁判スル陸海軍々法會議ノ如キ船舶ノ衝突ヲ裁判スル海員審判所ノ如キ又タ我國ニハ未タ現存セザレドモ商事ニ關スル訴訟ヲ裁判スル商事裁判所ノ如キ工業家ト職工トノ間ニ生ズル爭ヲ裁判スル工業裁判所ノ如キモノフ云フ要スルニ特別ナル學識經驗アルニ非レバ審到シ難キ事件又ハ訴訟當事者ノ利益ノ爲メ其審判手續ノ簡易迅速ナルヲ要スルコト等ノ事由アルガ爲メニ特別ニ設ケラレタル裁判所ニシテ乃チ此裁判所ハ憲法第六十條ニ所謂特別裁判所ナリト知ルベシ

○第三條　地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此限ニ在ラス

（一二）通常裁判所ノ組織ニ二種アリ一ハ單獨制ニシテ一ハ合議制是ナリ單獨制トハ一人裁判官ニテ事件ヲ審理裁判スルヲ謂ヒ議合制トハ其名ノ示ス如ク一事件ニ付數名ノ裁判官立會ヒ合議シテ審理裁判スルヲ謂フモノニシテ本法ハ四種ノ裁判所中區裁判所ノミ單獨制トシ他ハ總テ合議制ヲ採用ス卽チ地方裁判所ハ三名ノ判事控訴院ハ五名判事大審院七名ノ判事立會ヒ合議裁判スルヲ要ス本法以前ノ裁判所官制ニ於テハ合議制ヲ採用シタルハ控訴院及ヒ大審院ノミナクシガ本法ニ於テ始メテ地方裁判所ニモ合議制ヲ用スルニ至レリ然レドモ世之ニ付キテ非難スルモノ尠カラズ故ニ左ニ兩制ノ利害ニ關シ少シク研究スル所アラン

先ヅ合議制ニ付キ學者ノ非難スル所ノ點ヲ擧グレバ

第一、合議制ハ單獨制ニ比シテ事務ヲ淹滯セシムルノ弊アルコト　人心ノ異ナル猶ホ其面ノ如シトセバ一事件ヲ審判スルニ方リ單獨ニテ裁判スルト數人ニテ裁判スルトハ其遲速ニ於テ同一ナリトスルヲ得ズ何ントナレバ單獨シテ審判セシカ自己ノ心ニ決スル所ニ依リ直チニ處斷スルヲ得レドモ反之數人ニテ之ニ當ラシムレバ各其見ル所ヲ異ニシ合議ノ間ニ時ヲ消ヤスハ自然ノ結果ナリ然ルニ裁判ハ神速ヲ尊ブヲ以テ此點ヨリ見レバ合議制ハ單獨制ニ劣レルモノト言ハザルヲ得ズ

第二、合議制ハ單獨制ニ比シテ多額ノ經費ヲ要スルノ弊アルコト　合議制ハ單獨制ヨリ多數ノ裁判官ヲ要ス從ツテ之ニ要スル經費ノ增加ハ已ムヲ得ザル結果ナリトス若シ夫レ經費ヲ增加スルコトナクシテ人員ノミヲ增加センカ自然裁判官各個人ノ俸給ハ豐カナラザルモノアルニ至ルヲ以テ有爲ノ士ハ漸ク裁判所ヲ去リ老朽ノ輩ノミ其地位ニ甘ンジ裁判所ハ無能裁判官ヲ以テ滿サルヽニ至ルベシ反之單獨制ト爲サバ裁判官ノ人員減少スルノ結果經費ヲ節減シ而カモ裁判官各個ノ俸給ヲ厚フシ學識經驗ヲ兼ネ備ヘタル人士ヲ招致スルヲ得ベシ是レ亦タ合議制ノ單獨制ニ劣ル所ナリトス

第三、合議制ハ裁判官各自ヲシテ責任ヲ輕ンゼシムル弊アルコト　凡ソ何事ニ依ラズ一人ニテ之ヲ爲スト數人ニテ爲ストハ其間責任ノ負担ニ付キ輕重ノ差アルハ人情ノ免カ

レザル所ナリトス一人ニテ事ニ當ランカ其功過一ニ自己一身ノ双肩ニ繫ルヲ以テ專心過ナカランコトヲ盡ムルモ反之數人ニテ事ニ當ランカ互ニ責任ヲ他ニ稼シ自然疎漏ノ失ナキヲ保セズ此人情普通ノ狀態ヨリ見ルモ合議制ハ單獨制ニ劣レルモノナリ

以上非難ノ諸点ヲ見レバ合議制ハ全然採ルニ足ラザル如キ歟アレドモ飜ツテ思フニ合議制亦タ其得長ナキニアラズ左ニ其一二ヲ擧グレバ

第一、合議制ハ單獨制ニ比シテ適正ノ裁判ヲ得ルノ利アルコト　裁判官ハ多ク法律ニ通曉シ世事ニ經驗アルヲ以テ其事ヲ處スルニ當リテハ誤ナカルベシト雖モ人ハ時トシテ感情ノ平靜ヲ失スルコトアリ然ラザルモ千慮ノ一失ナキヲ保セズ然ラバ單獨ニテ裁判セシヨリモ數人合議シテ互ニ其誤ヲ正サバ眞理其間ニ顯ハレ以テ適正ナル裁判ヲ見ルコトヲ得ン是レ合議制ガ單獨制ニ優サル第一點ナリトス

第二、合議制ハ單獨制ニ比シテ公平ノ裁判ヲ得ルノ利アルコト　裁判官ハ剛刻廉直ノ士ナラザルベカラズ然レドモ多數ノ裁判官中人民ノ賄賂請托ヲ受クルモノナキヲ保セズ

斯ル場合ニ於テ單獨制ナランカ贈賄者モ少額ノ費用ヲ以テ其目的ヲ達シ得ルガ故ニ行ヒ易ク又タ受クル者モ自己一人ノ意思ノミヲ決スルコトヲ得ルヲ以テ受ケ易シ反之合議制ナランカ贈ル者モ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ躊躇スベク又タ裁判官ニ於テモ互ニ相戒ムルヲ以テ一二腐敗漢アリトモ能ク其志ヲ遂グル能ハザルベク以テ私曲ヲ未前ニ防ギ裁判ノ公平ヲ得ベシ是レ合議制ノ單獨制ニ優サル第二點ナリトス

一得一失ハ數ノ免ガレザル所前來述ベタル兩制ヲ對スルトキハ互ニ一利一害ナキヲ得ズ左レバ兩制ヲ折衷シテ始メテ適當ノ制タルヲ得ベシ本法亦タ此折衷主義ヲ採用シタルニ外ナラズ而シテ區裁判所ヲ單獨制ト爲セシハ其取扱フ所ノ事務ハ概子簡易ニシテ且ツ迅速ヲ要スルモノ多ケレバナリ反之地方裁判所以上ハ事件モ稍ヤ複雜セルヲ以テ數名ノ判事ヲ以テ組成スル部ニ審判スルモノト爲シタリ部ノ性質ニ付テハ後ノ説明ニ讓ル

(一三)合議裁判所ト雖モ裁判事項ハ悉ク合議ヲ待ツベキモノニアラズ或ル場合ニ於テハ一名ノ判事ヲシテ審判セシムルコトアルベシ例ヘバ民事訴訟法ニテモ刑事訴訟法ニテモ

受訴裁判所ガ或ル事件ノ證據調ヲ爲スニ當リ其部員一名ニ命ジ受命判事又ハ他ノ裁判所ノ判事ニ屬託シテ(受托判事)其取調ヲ爲サシムルコトアリ又タ刑事訴訟法ニ於テハ豫審ノ取調ハ總テ一名ノ豫審判事ヲシテ之ヲ爲サシムルガ如シ是レ本條但書アル所以ナリ

○第四條　裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

(一四)裁判所ノ設立廢止及ヒ管轄區域并ニ其變更ハ司法上重大ノ事件ニシテ人民ノ利害休戚ニ關スル所尠カラザルヲ以テ法律ノミヲ以テ之ヲ定メ勅令命令等ノ行政處分ニ委セザラシム蓋シ既設ノ裁判所モ土地ノ盛衰交通ノ便否ニ因リテ廢止セザルベカラザルコトアルベク又タ未設ノ地ニ於テモ之ヲ設立スルノ必要ヲ生ズルコトアルベシ斯ル場合ニ之ヲ命令等ノ行政處分ニ委センカ其專横ナル行動ニ因リテ遂ニ司法權ノ消長ニモ關スル結果ヲ生スルコトアルヲ慮カリテ法律ニ非レバ其等ノ手續ヲ爲ス能ハズト定メタルモノナリ

○第五條　各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

(一五)各裁判所ニテ取扱フ所ノモノハ爭訟事件及ビ非訟事件等ナレドモ裁判所ノ種類ニ由リ土地ノ狀況ニ由リ其事件ノ多寡事務ノ繁閑ハ總テ同一ナルヲ得ズ故ニ其事件ノ多寡繁閑ノ度ニ應ジテ相應ナル判事ノ人員ヲ定ムベキコト勿論ナリ

○第六條　各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關スル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

(一六)檢事局トハ檢事ガ其職務ヲ行フ官衙ニシテ各裁判所ニ附置セラレ裁判所以外ニ設置セラルルモノニアラズ而シテ檢事ハ社會ヲ代表シ公益ヲ保護スルノ任アルモノニシテ判事トハ自ラ其職務ヲ異ニス左レバ檢事局ハ裁判所ノ一附屬物ニアラズシテ獨立シタル双互對等ノ官衙トス檢事ノ職務權限ヲ擧グレバ

第一、刑事上ノ職務　犯罪者アル場合ニ檢事ノ第一着ニ執ルベキ職務ハ之ニ對シテ公訴ヲ提起スルニアリ卽チ裁判所ニ向ツテ之ヲ裁判センコトヲ求ムルニアリ而シテ又タ其取扱上必要ナル手續ヲ爲スベキモノトス例ヘバ犯罪事件ノ搜査ヲ爲シ檢證處分ヲ求ムルガ如キヲ云フ之ニ次ギテ執ルベキ職務ハ裁判所ニ向ツテ法律ノ正當ナル適用ヲ示シ以テ刑ノ適用ヲ請求スルニアリ是レ實ニ公訴ノ目的トスル所ナレバナリ而シテ又タ第三ニ執ルベキ職務トシテハ判決確定シタルトキハ其判決ノ執行ヲ監視スルニアリ尙ホ刑事訴訟法第三百二十條ハ刑ノ執行ハ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ爲スモノト爲セリ左レバ檢事ハ刑ノ言渡確定スルヤ其執行ヲ指揮シ且其執行ヲ終ハルマデハ常ニ監視ヲ怠ル可カラザルモノトス要スルニ檢事ノ職務ハ犯罪アルトキハ之カ搜査ニ任ジ犯罪アリト思料セバ公訴ヲ提起シ若シ刑ノ言渡アルトキハ言渡確定ヲ俟ツテ其執行ヲ指揮監督スルニアリ

第二、民事上ノ職務　民事ニ付テモ檢事ハ必要ナリト認メタルトキハ豫メ其事件ニ付テノ通知ヲ求メテ之ニ立會ヒ自己ノ意見ヲ述ブルコトヲ得是レ一般ノ場合ニシテ立會フト立會ハサルトハ檢事ノ自由ニ存シス然レドモ或ル特別ノ訴訟ニ付テハ必ラズ檢事ノ立

會ヲ要ス是レ民事訴訟法第四十二條ノ規定スル所ニシテ同條ニ依レバ第一公ノ法人ニ關スル訴訟第二婚姻ニ關スル訴訟第三夫婦間ノ財産ニ關スル訴訟第四親子若クハ養親子ノ分限其他總テ人ノ分限ニ關スル訴訟第五無能力者ニ關スル訴訟第六養料ニ關スル訴訟第七失跡者及ヒ相續人缺ノ遺産ニ關スル訴訟第八證書ノ僞造若クハ變造ノ訴訟第九再審ニ付テハ裁判所ハ口頭辨論ノ期日前ニ檢事ニ通知ヲ爲シ檢事ハ其口頭辨論ニ立會フコトヲ要ス此二個ノ何レノ場合ニ於テモ檢事ハ公益ノ代表者タル地位ヨリシテ單ニ附隨ノ當事者トシテ之ニ參加シ其意見ヲ述ブルモノナレバ全ク裁判所ノ注意ノ爲メニ過ギズ裁判所ハ毫モ之ニ羈束セラルヽコトナシ左レバ檢事ノ意見ハ殆ンド裁判上効力ナキモノト斷言スルヲ得ベシ然レドモ又タ檢事ガ民事ノ訴訟ニ付キ主タル當事者タルコトアリ此場合ニ於テハ檢事ハ獨立シテ上訴スルコトヲモ得ベシ右ハ婚姻ノ無効取消ノ請求禁治産ノ宣告ノ請求親權ノ喪失ノ宣告ノ請求等ノ場合ニシテ之ニ關スル手續ハ民事訴訟手續法ニ規定スル所ナリ

第三、司法及行政事件ハ監督　檢事ハ政府ノ耳目タルモノナレバ其機關トシテ司法ニ關スル行事事務ヲ取扱フベキハ勿論ナルモ尚ホ司法權ノ運用其宜キヲ得ルヤ否ヤ換言スレバ裁判官ノ裁判適當ナルヤ否ヲ監督セザルベカラズ此監督權ノ區域ニ至リテハ未ダ明白ナラザルモノアレドモ可及的狹キ範圍ニ止メザルベカラズ然ラザレバ司法權ノ獨立ヲ左右スルノ恐アレバナリ司法ニ關スル行政事務ノ取扱ニ付テハ第四編ニ於テ說明スベシ

(一七)以上ハ檢事ノ職務ノ概要ニシテ檢事ガ右ノ職務ヲ執行スルニ當リテハ獨立シテ之ヲ行フベク決シテ裁判所ノ指揮監督ヲ受クベキモノニアラズ

(第二項)若シ或ハ裁判所ノ左右スル所トナランカ檢事ハ如何ニシテ能ク社會公益ノ代表者タル職務ヲ盡スコトヲ得ンヤ是レ裁判所ニ對シ獨立シテ其職務ヲ行フヲ要スル所以ナリ但シ是レ單ニ裁判所ニ對シテ獨立ナルベキヲ言ヘルモノニシテ檢事相互ノ間ニ於テハ各獨立ナラズ總テ上官ノ命令ニ從ヒ恰モ一體ヲ爲ス是レ裁判所ガ絕對的ニ獨立ナルト其趣ヲ異ニスル所ナリ

(第三項)ハ檢事ノ管轄區域ヲ定ムルモノナリ檢事ノ取扱事件ハ固ヨリ其附置セラレタル裁判所ニ屬スル事件ナルヲ以テ其管轄區域ハ裁判所ノ管轄區域ト同一ナルベキハ勿論ナリトス

(第四項)ハ檢事差支アル場合ニ判事ニ命ズルコトヲ規定ス即チ若シ一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク病氣其他ノ差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ザルトキハ裁判所長又ハ一人ノ判事ヲ有スル區裁判所ニ於テハ其判事又二人以上ノ判事ヲ有スル區裁判所ニ於テハ其監督判事ハ他ノ判事ニ檢事ノ代理ヲ命ジ其事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得ルモノトセリ尤モ檢事ニ差支アル場合ハ常ニ代理ヲ命ズルコトヲ許シタルニ非ラズシテ單ニ其事件緊急ニシテ猶豫シガタキ場合ニ限ルモノトス此制限タルヤ判事ニ檢事代理ヲ命ズル如キハ法律ガ判檢事ノ職務權限ヲ區別シタル趣旨ニ戻ルヲ以テ不得已場合ノ外是ノ如キ異例ノ生ズルコトヲ欲セザレバナリ然レドモ檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ刑事ノ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ザルハ第八十一條ノ規定スル所ナリ

○第七條　檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

(一八)本條ハ判事ノ員數ニ關シテ第五條ニ規定シタルト同ジク事件ノ多寡事務ノ繁閑ニ從ツテ相應ナル員數ノ檢事ヲ配置スベキヲ規定セリ

○第八條　各裁判所ニ書記課ヲ置ク書記課ハ往復會計記錄其他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限リ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲メ特別官吏ヲ置クコトヲ得

(一九)第一項ハ裁判所附屬ノ書記課ニ付キ規定ス各裁判所ニハ必ラズ書記課ヲ設ク書記

課ハ裁判所書記之ヲ組織ス而シテ書記ノ執ル所ノ事務ハ其數多シト雖モ其重ナルモノハ裁判所當事者間或ハ訴訟當事者相互間ニ於ケル書面上ノ往復ヲ爲シ調書ノ作製訴訟記錄ノ整頓保存裁判所ノ會計等ニシテ其他本法又ハ他ノ法律特ニ民刑訴訟等ニ指定サレタル事務ヲ取扱フ

第二項ハ檢事局ノ書記課ニ付キ規定ス檢事局ニ於テモ右ノ如キ職務ヲ取扱フ爲メ必要ナリト認ムルトキハ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得ルモノトス然レドモ裁判所ト異ナリ檢事局ハ必シモ之ヲ設クルコトヲ要スルニアラズ單ニ必要ナリトスルトキニ限リ之ヲ置クコトヲ得ルモノトス是ヲ以テ區裁判所檢事局ノ如キハ到底其必要ナキモノト見テ之ヲ設置スルコトヲ得ザルモノトセリ是レ但書ノ規定アル所以ナリ

第三項ハ裁判所ノ會計官吏ニ付キ規定ス司法大臣ハ專ラニ裁判所ノ會計事務ヲ取扱フ爲メニ特別官吏ヲ各裁判所ニ置クコトヲ得ルモノトス然レドモ現今ニ於テハ此ノ如キ特別官吏アルナシ

○第九條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

(二〇)本條ハ區裁判所ニ執達吏ヲ置ク旨ヲ規定ス執達吏ノ職務ハ裁判所ヨリ發スル文書ノ送達ヲ爲シ及ビ裁判ノ執行ヲ爲シ其他民事訴訟法執達吏規則等ニ依リ特ニ定メタル職務ヲ執ル卽チ主トシテ民事訴訟ニ關スル職務ヲ司ルモノトス而シテ之ヲ特ニ區裁判所ニ置キタルハ區裁判所ハ民事ニ關スル執行裁判所ニシテ(民事訴訟第五百四十三條)全國到處ニ存在スレバナリ

○第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近

上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ズ且此ノ法律十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付キ疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セズトノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セズトノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

（二）本條ハ管轄指定ノ裁判ニ付キ規定ス管轄指定ノ裁判トハ裁判事件ノ管轄ニ付テハ豫メ法律ヲ以テ定メラレタル各裁判所管轄區域ニ從フベキモノナレドモ時トシテハ相當管轄裁判所ニ差支アリテ裁判ヲ爲ス能ハザルコトアリ或ハ或ル事件ガ何レノ裁判所ノ管轄ニ屬スルヤ分明ナラザルコトアリ若ハ數箇ノ裁判所間ニ管轄ノ爭議ヲ生ズルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ孰レノ裁判所ニ於テ其事件ヲ受クベキヤ明カナラザルガ故ニ上級ノ裁判所ニ於テ之ヲ指定スルノ謂ナリ

今管轄指定ノ裁判ヲ說クニ當リ便宜上先ヅ如何ナル裁判所ニ於テ此裁判ヲ爲スベキカヲ論ジ次ニ如何ナル場合ニ此指定裁判ヲ爲スベキカニ及バントス

管轄指定ノ裁判ヲ爲スベキ裁判所ハ本條ニ依レバ「關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級裁判所ナリ」トス乃チ管轄問題ニ關係セル各裁判所ヲ併セテ管轄セル最モ近キ上級ノ裁判所ナリ左レバ地方裁判所ナルコトアリ控訴院ナルコトアリ將タ又タ大審院ナルコトアリ例ヘバ同一地方裁判所ノ管轄ニ屬スル數箇ノ區裁判所間ニ管轄ノ爭アルトキハ其地方裁判所ニ於テ指定裁判ヲ爲スベク或ハ別異ノ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル數箇ノ區裁判所間ニ生ジタルトキハ其別異ノ地方裁判所ヲ併セ管轄スル控訴院ニ於テ指定スベク或ハ別異ノ控訴院ノ管轄ニ屬スル數箇ノ地方裁判所間ニ生ジタルトキハ大審院ニ於テ指定スルガ如シ

(二二)如何ナル場合ニ於テ管轄指定ノ裁判ヲ爲スベキカ本條ニ依レバ四箇ノ場合アル如シ以下之ヲ說カン

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ズ且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得ザルトキ

約言スレバ相當裁判所ニ於テ裁判ヲ爲ス能ハズ又之ニ代ハルベキ裁判所モ同樣ナルトキニハ管轄指定ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ト云フニ歸ス而シテ其裁判所ガ裁判ヲ爲スコト能ハザル理由ニ二アリ法律上ノ理由及ビ特別ノ事情是ナリ「法律上ノ理由」トハ例ヘバ判事ガ法律ニ依リテ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヽ場合ノ如シ除斥トハ一例ヲ示サバ刑事ニ於テハ判事ガ被告人ノ親屬ナルトキ又ハ判事ガ被告事件ノ被害者ナルトキ民事ニ於テハ判事ガ原告若ハ被告ナルトキノ如キハ公平ノ裁判ヲ爲スコト能ハズトノ理由ニテ法律上其職務ヲ執行スルヲ許ルサレザル如キ場合ヲ云フ(刑事訴訟法第四十條以下民事訴訟法第三十二條以下)「特別ノ事情」トハ事實上ノ理由ニシテ判事ノ死去病氣等ノ事由ニ因リ裁判ヲ爲スコトヲ得ザルナリ裁判所ガ此等ノ原因ニ因リ裁判ヲ爲ス能ハザル場合ハ地方

裁判所以上ニハ極メテ稀ナルベク區裁判所ニ於テハ多ク有リ得ベキナリ然レドモ區裁判所ニ就キテハ本法第十三條ニ依レバ毎年地方裁判所長ハ甲ノ區裁判所ニハ差支アルトキハ乙區裁判所ヲ以テ其代理ト爲スコトヲ前以テ定ムルノ規定アリ左レバ此代理區裁判所ノ判事モ亦右等ノ原因ノ爲メ裁判ヲ爲スコト能ハサルトキニ於テ始メテ管轄指定ノ裁判ヲ爲シ得ベキモノトス

第二　裁判所管轄區域明確ナラザルカ爲其權限ニ付疑ヲ生ジタルトキ

裁判所ノ管轄區域ハ府縣郡等ノ行政區劃ニ從ツテ定メラレタルモノナルヲ以テ今日ニ於テ其區域ノ明確ナラザルモノ殆ンド之ナカルベシレドモ時ニ或ハ某ノ土地ガ甲裁判所ノ管轄區域ニ屬スルヤ乙裁判所ニ屬スルヤ認メ得ラレザルコトナキヲ保セズ此場合ニ於テ先ヅ何レノ裁判所カ管轄ナリヤヲ定ムルノ要アリ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

此場合ハ積極的權限爭ト稱シテ次號ノ消極的權限爭ト相對ス即チ二以上ノ裁判所ガ互ニ裁判權ヲ有スト爭フ場合ナリ「法律ニ從ヒ」トハ如何ナル趣旨ナルカ知リ難シト雖モ刑事ニ於テハ一例ヲ想像スルコトヲ得ベシ刑事訴訟法ニ於テハ土地ノ管轄數箇アル場合ニ於テ其中ニテ最初據審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス（刑事訴訟法第二十七條）斯ル場合ニ若シ二以上ノ裁判所ガ殆ンド同時ニ着手シタルトキハ其中何レノ裁判所ヲシテ管轄セシムベキヤヲ決スル必要アリ又タ「二以上ノ確定判決ニ因リ」トハ同一事件ニ付二以上ノ裁判所ガ判決ヲ以テ各裁判權ヲ有スト宣言シ其判決確定シタルトキノ如シ勿論右何レノ場合ニ於テモ其二以上ノ裁判所ノ中一ニ於テ裁判權ヲ行フベキモノナルヤ否ヤハ毫モ問ハザル所ナリ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セズトノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セズトノ確定判決ヲ受ケタルモ其裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

是レ所謂消極的權限爭ト稱スルモノニシテ前者ト反對シ二以上ノ裁判所ガ共ニ裁判權ヲ有セズトノ判決ヲ爲シ共ニ其判決ガ確定シタルトキカ又ハ其判決ニ對シ上訴ヲ爲シタルトキ上級審ニ於テモ亦權限ヲ有セズトノ判決ヲ爲シ其判決確定シタルモ其實其二以上ノ裁判所中ノ何レカノ一ガ管轄裁判所ナルベキトキニ於テハ管轄指定ノ裁判ヲ以テ決スルノ必要アリ以上掲ゲタル四箇ノ場合ニ於テハ管轄指定ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ルハ右述ベタル如クナレドモ單ニ此場合ニ限ルモノニアラズ他ノ法律ニ於テ特定シタル場合ニ於テハ又タ之ヲ爲シ得ベシ例ヘバ民事訴訟法第二十六條ニ規定セル不動產上ノ裁判籍ニ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ不動產ガ數箇ノ裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキノ如シ是レ本條冒頭ニ「法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外」トアル所以ナリトス

(二三)裁判所ハ前段述ベタル事項ノ一アルコトヲ知リタルトキト雖モ自ラ進ンデ管轄指定ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ズ適當ナル申請アルヲ俟ツテ而ル後ニ裁判ニ着手スルヲ得ベキナリ而シテ其申請ヲ爲スコトヲ得ル者申請ヲ爲スノ手續及ビ其裁判ニ付テハ民刑事訴訟法ニ規定セラル(民事訴訟法第二十六條乃至第二十八條刑事訴訟法第三十一條乃至第三十三條)

第二章　區裁判所

○第十一條　區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他判事屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其行政事務ヲ委任ス

(二四)區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事即チ一人ノ判事之ヲ行ヒ合議ノ制ヲ採ラズ是レ其取扱フ所ノ事務概ヲ輕易ナルノミナラズ急速ヲ要モスルモノ多ケレバナリ故ニ二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ事務ノ分配ヲ爲サヽルベカラズ此ノ分配ヲ定ムルハ地方裁判所長ニシテ毎年前以テ翌年度ノ事務ヲ司法大臣ノ定メタル事務章程ニ從ヒ分課スベキナリ其方法ハ例ヘハ事件ノ種類ニ依リ或ハ土地ノ區域ニ依ルガ如シ

右ノ事務分配ハ畢竟裁判所内部ノ事ニ屬スルヲ以テ其裁判所ノ或ル判事ガ職權上取扱ヒタル事柄ハ裁判事務分配上設ヘ他ノ判事ニ屬スルモノナリト雖モ之ニ因ツテ既ニ爲シタル裁判ノ効力ヲ失ハシムルモノニアラズ

區裁判所ニハ所長ヲ置カズ判事二人以上アルトキハ司法大臣ハ其中ノ一人ヲ監督判事トシ裁判所部内諸般ノ行政事務ヲ取扱ハシム而シテ區裁判所判事ヲ監督スルハ地方裁判所長ニシテ監督判事ハ單ニ其ノ余ノ官吏即チ書記執達吏等ヲ監督スルニ止マルモノトス

(第百三十五條第六號參照)

○第十二條　事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ更セズ但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久シク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此限ニ在ラス

(二五)司法大臣ノ定ムル通則ニ依リ一タヒ事務ノ分配定マリタル上ハ一司法年度中ハ容易ニ其變更ヲ許ルサヽレドモ其事務分配平等ナラズ一人ノ判事ノ分擔非常ニ多キニ過グ

ルカ若クハ判事中ニ退官轉職アルカ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久シク欠勤スルモノアリテ引續キ差支ヲ生ズルガ如キトキハ之ヲ變更スルヲ得ルモノトス司法年度トハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハルコトハ後條ノ規定スル所ナリ

○第十三條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前ニ以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事職務ハ其裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得ザルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ジク毎年前以テ之ヲ定ム

(二六)第一項ハ區裁判所判事ハ代理ニ付キ規定ス乃チ區裁判所判事一時ノ差支ヲ生ジタルトキ之ニ代理スルモノナキトキハ事務ノ滯滯ヲ來タスベキヲ以テ之ガ代理ヲ爲ス者ヲ定ムルハ最モ必要トス而シテ故障アル毎ニ代理者ヲ指定スルハ公平ヲ失スルノ嫌アルヲ以テ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス

第二項ハ區裁判所ノ代理ヲ規定ス判事差支アルトキハ之ガ代理ヲ爲スベキ者ハ前項ニ依リテ明カナレドモ若シ其區裁判所ガ全廳悉ク法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判事務ヲ執ル能ハザルトキモ亦タ代理區裁判所ヲ定メ置クノ必要アリ是ヲ以テ前項ト同ジク毎年前以テ之ヲ定ム此ノ裁判所ノ代理ハ唯タ區裁判所ニ特別ナル規定ニシテ地方裁判所以上ニハ此規定ナシ蓋シ地方裁判所以上ニテハ夫々判事補充ノ途十分ナレバ全廳擧ツテ裁判事務ヲ取扱フ能ハザル場合ハ殆ンド之ナカルベケレハナリ

○第十四條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有スル所ニ依ル

但反許ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル金額又ハ價額百圓ヲ超過セザル物ニ

第一　百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セザル物ニ

關ル請求

第二　價額ニ拘ハラス左ノ訴訟

（イ）　住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明度使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

（ロ）　不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

（ハ）　占有ノミニ關ル訴訟

（ニ）　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

（ホ）　左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴

（一）　賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

（二）　旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預リタル手荷物金錢又ハ有價物

（二・七）本條ハ民事ニ關スル區裁判所ノ裁判權ノ範圍ヲ定メタルモノナリ即チ之ヲ二種ニ區別シ第一ハ百圓ヲ超過セザル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求第二ハ價額ニ拘ハラザル事件五項ヲ規定セリ

第一ノ事件ノ價額ヲ定ムルニ百圓ヲ限界ト爲シタルハ別ニ深キ理由アルニアラズ單ニ我國一般ノ生計ノ度ヲ標準トシテ此額位マデハ大金トモ認メザレバ區裁判所ノ權限ニ屬セ

シムルモ可ナリトシタルニ過ギス而シテ此價額ノ算定法ハ民事訴訟法第二條乃至第六條ノ規定スル所ニシテ其概要ヲ云ヘバ訴訟物ノ價額ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム尤モ起訴ノ日時ニ於ケル價額ニ依リ算定シ又タ果實損害賠償及ヒ訴訟費用ハ主タル請求ニ附帶シ一訴訟ヲ以テ請求スルトキハ合算セザル等ノ制限アリ例ヘバ起訴後ニ於テ百五拾圓ノ價額アルモ起訴ノ當時百圓以下ナレバ區裁判所ニ屬スベク又タ元金百圓ニ併セテ其利子五拾圓ヲ一訴訟ヲ以テ請求スルトキハ合計百五拾圓ト爲ルモ元金ノ額ノミヲ以テ訴訟物ノ價額トナスガ故ニ區裁判所ノ管轄ニ屬ベスキガ如シ

第二ハ價額ニ拘ハラス事件ノ種類ニ因リテ定ム即チ其事件ヲ輕微ナルアリ或ハ急速ヲ要スルアリ或ハ區裁判所判事ハ其土地ノ情況ニ精シキヲ以テ之ケ審判スルニ便利ヲ得ル等ノ事情ヨリシテ設ヘ其價額ハ百圓ヲ超過スルモ之ヲ區裁判所ノ權限ニ屬セシノタルモノトス即チ本條(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)ノ五項ニ規定シタル諸件是ナリ

以上述ベタル所ハ區裁判所ガ本訴トシテ事件ヲ受理スベキ場合ノ權限ヲ定メタルモノナルモ反訴ニ付ヒテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依リ此規定ニ從フコトヲ要セザルモノトス乃チ一箇ノ請求ヲ反訴トシテ主張スルトキハ其金額價額ノ多寡ニ拘ハラズ本訴ノ裁判所ニ訴フルコトヲ得ルモノトス反訴トハ一訴訟事件ノ當事者タル被告ヨリ更ラニ原告ニ對シテ同一ノ裁判所ニ一ノ訴ヲ爲スコトヲ謂フ例ヘバ甲ヨリ乙ニ貸金請求ノ訴ヲ爲シタルニ被告乙ハ更ラニ原告甲ニ向ヒ物品取戻ノ訴ヲ爲スガ如シ（民事訴訟法第二百條乃至第二百二條參照）

○第十五條　區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一　未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二　不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三　商業登記及特許局ニ登錄シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

（二八）區裁判所ハ民事刑事ノ訴訟事件ノ外尙ホ非訟事件ヲモ取扱フベキモノトス非訟事件トハ其名ノ示スガ如ク訴訟ニ非ル事件ニシテ裁判所ノ權限ヨリ之ヲ見テ獨逸法ハ一般ニ任意裁判權限ト云フ而シテ其所謂任意裁判權限ノ定義ヲ下スコト甚ダ困難ナレドモ要スルニ私法上ノ權利關係ヲ明確ニスルガ爲メニ裁判所ノ爲ス所ノ行爲ヲ謂フ乃チ各人ノ私法上ノ權利關係ニシテ民法其他實體法ノ定ムル所ニ從ヒ裁判所ノ公認ヲ經ベキモノナルトキハ其請求ニ因リテ之ヲ公認シ以テ後日ノ紛議ヲ豫防スルニアリ而シテ此權限ハ唯リ區裁判所ニ屬セシメタルモノトス蓋シ區裁判所ハ最下級ノ法衙ニシテ直接人民ニ接シ且ツ其土地ノ情況ニ通ズルノミナラズ全國各地ニ散在ニシテ其數モ多ケレバ從ツテ人民ノ權利ヲ保護スルニ極メテ便利ナレバナリ

非訟事件ノ何タルハ本條ニ規定スル所ニシテ第一ハ未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若クハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若クハ管財人ヲ監督スル事第二ハ不動産及ヒ船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事第三ハ商業登記及ヒ特許局ニ登錄シタル特許意匠及ヒ商標ノ登記ヲ爲ス事ニシテ區裁判所ガ此等ノ事件ヲ取扱フニ當リテハ各法律ノ定ムル範圍及ビ方法アルヲ以テ之ニ準據セザルベカラザルモノトス（民法商法不動産登記法船舶登記規則同取扱手續商業登記取扱手續特許法意匠法商標法及ビ非訟事件手續法等參照）

○第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　違警罪

第二　本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セザル二月以下禁又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三　刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若バ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ラニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セズト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得ズト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セズトノ言渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受シムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

（二九）本條ハ民事ニ關スル區裁判所ノ裁判權ヲ定メタルモノナリ即チ之ヲ二種ニ區別シ第一ニ違警罪第二ハ輕微ナル輕罪ナリ而シテ第二ノ輕微ナル輕罪ニ付テハ又タ之ヲ二種ニ分チ一ハ當然區裁判所ノ權限ニ屬スルモノ一ハ地方裁判所檢事ノ移付ニ依リ受理スル輕罪トス以下之ヲ說明スベシ

第一ハ違警罪ニシテ當然ニ區裁判所ノ管轄ニ屬ス然レドモ違警罪ナルモノハ常ニ區裁判所ニノミ屬スベキモノニアラズシテ明治十八年布告第三十一號違警罪卽決例ニ依リテ警察官ハ違警罪ニ付キ之ヲ審理裁判スルノ權ヲ付與セラル是レ蓋シ違警罪ハ極メテ微々タル事件ナレバ略式タル卽決ヲ爲スモ被告ノ爲メ公益ノ爲メ共ニ便益ナレバナリ故ニ法律上區裁判所ノ管轄ニ屬スル違警罪ハ今日ノ實際ニ於テハ多ク警察官ノ管轄ニ歸シ直チニ區裁判所ノ裁判ヲ受クルコト稀ナリ然レドモ被告若シ其卽決ニ對シ不服ナレバ區裁判所ニ向ツテ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得左レバ正式裁判ハ一種ノ上訴ノ如クナレドモ其

間ニハ審級ノ差アルニアラズ單ニ略式ノ假裁判ト正式ノ本裁判ト云フガ如キ差アルノミ

第二ハ當然區裁判所ノ權限ニ屬スル輕罪ニシテ本條第二號ニ規定スルモノ之ナリ左ノ三種ノ輕罪ヲ包含ス即チ(一)本刑二月以下ノ禁錮ニ該ル輕罪(二)本刑五拾圓以下ノ罰金ヲ附加シタル二月以下ノ禁錮ニ該ル輕罪(三)本刑單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪ナリトス而シテ或ル犯罪ニ科シタル本刑ノ何タルカハ各法規ノ規定ヲ見ルノ外ナシ

第三ハ所謂移付事件ト稱シ本條第三號ニ規定ス是亦タ三種ノ輕罪ヲ包含ス即チ(一)本刑二年以下ノ禁錮ニ該リ其情二月以下ノ禁錮ニ處スヘキモノト認メタル輕罪(二)本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シタル二年以下ノ禁錮ニ該リ其情五十圓以下ノ罰金ヲ附加スル二月以下ノ禁錮ニ處スレハ足ルト認メタル輕罪(三)本刑單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノト認メタル輕罪ノ三種ノ輕罪トス但シ刑法第二編第一章ニ規定シタルモノヲ除ク是レ皇室ニ關スル罪ナレバナリ而シテ右三種ノ輕罪ハ其本刑ハ何レモ第二ニ掲ゲタルモノヨリ重ケレドモ其情狀ハ第二ニ掲ゲタル刑ヨリ重キ刑ニ處スルコトヲ要セズト認メラルヽヲ以テ區裁判所ノ權限ニ屬セシム而シテ其情狀ノ認定ハ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事之ヲ爲スベキモノトス何ントナレバ右三種ノ輕罪ハ元來地方裁判所ノ權限ニ屬スベキモノナレバナリ地方裁判所檢事右ノ認定ヲ爲シタルトキハ直チニ之ヲ區裁判所檢事ニ送致スベシ然ルトキハ區裁判所檢事ニ於テ之ヲ其裁判所ニ起訴スベキモノトス而シテ區裁判所ニ於テハ其事件ヲ審理シタル末果シテ其情第二ニ掲ケタル刑以下ニ處スルヲ適當ナリト認定シタルトキハ其裁判ヲ爲シ若シ又タ否ラザルトキハ管轄違ノ言渡ヲ爲スベキモノトス此場合ニ於テハ區裁判所檢事ハ之ヲ地方裁判所檢事ニ送致シ同檢事ハ之ヲ其裁判所ニ起訴スベキモノトス即チ未段ニ所謂相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲メ適當ノ手續ヲ爲スナリ

○第十七條　前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

(三〇)區裁判所ノ權限ハ上來述ベタル所ノ如シ然レドモ唯タ之ニ止マルノミナラズ民刑訴訟法若クハ特別法ノ定ムル所ニ從フベキモノナレドモ今日未タ其規定ヲ見ザルナリ

○第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムコトヲ得

(三一)本條ハ區裁判所ノ檢事局ニ付キ規定ス區裁判所ニ於テモ刑事々件ヲ取扱フベキコト前來説明ノ如クナレバ檢事ヲ置クノ要アルコト勿論ナリトス然レドモ其取扱フ所ノ事件ハ極メテ輕微ナルモノナレバ場所ニヨリテハ特ニ檢事ヲ置クコトナク其區裁判所々在地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ルモノトス左レバ是等ノ官吏ハ一面ニハ司法警察官トシテ檢事ニ隷屬スルノ外又一面ニハ區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ヲ取扱フコトアルナリ此ニ所謂「警察官」トハ警部以上ヲ云ヒ巡査ハ部長代理ノ外此中ニ含マズ「憲兵將校下士」トハ憲兵ノ將校憲兵ノ下士ヲ云フ「林務官」トハ農商務省ノ官制中ニ所謂林務官ニ非スシテ總テ林務ニ從事スル官吏ヲ總稱ス

又タ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ハ司法大臣ノ指命スル場合ニ於テ檢事代理スルコトヲ得(第三項)但シ此場合ニ於テハ單ニ檢事ノ代理トシテ職務ヲ執ルニ過ギザレバ之ヲ前項ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官ニ比スレバ其權限更ラニ狹少ナルモノトス

警察官憲兵將校下士又ハ林務官タルト判事試補又ハ郡市町村長タルトヲ問ハズ檢事ノ職務ヲ行フニ付テハ專任檢事ト同一ノ權限ヲ有シ又タ同一ノ責任ヲ負フ故ニ公訴ヲ提起シ公訴ヲ續行シ上訴ヲ爲シ刑ノ執行ヲ指揮スルノ權ヲ有シ又タ上級檢事及ビ司法大臣ノ指揮監督ニ從フベキモノトス

第三章　地方裁判所

○第十九條　地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

(三二)地方裁判所以上ハ皆ナ第三條ニ定メタル合議制ヲ採ルモノニシテ地方裁判所ハ其初等級ナルヲ以テ第一審ノ合議裁判所トス而シテ地方裁判所ニハ一若クハ二以上ノ民事部及ビ刑事部ナルモノアリテ民事ニ關スル事項ハ民事部ニ於テ刑事ニ關スルモノハ刑事部ニ於テ審判スルモノトス其部數ニ制限ヲ置カザルガ故ニ事務ノ繁閑ニ從ヒ相應ナル員數ノ局部ヲ設クルコトヲ得ベシ

○第二十條　各地方裁判所ニ地方裁判所々長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

(三三)地方裁判所ハ區裁判所ト異リ必ラズ地方裁判所長ヲ置ク所長ノ執ルベキ職務ハ第一ニ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ第二ニ裁判所ノ行政事務ヲ監督ス(第一二項)

地方裁判所ノ民刑事各部ニ部長ヲ置ク部長ハ其部ニ於ケル事務ヲ管掌シ事務ノ分配ヲ爲スモノトス(第三項)

○第二十一條　司法大臣ハ毎年各地方裁判所判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ズ

(三四)地方裁判所ニハ豫審判事ナルモノヲ置キ刑事ニ付テノ豫審事務ヲ取扱ハシム而シテ其任命ハ司法大臣ヲシテ之ヲ爲サシムル理由ハ豫審ノ事務ハ重大ニシテ豫審判事ニハ非常ナル權力アルモノナレバ其選任ヲ誤マラザランガ爲メナリ

○第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スベシ

（三五）地方裁判所ノ事務分配方法ハ區裁判所ノ事務分配ト同ジク司法大臣ノ定メタル通則ニ從フコトヲ要ス（第一項）唯ダ異ナル点ハ區裁判所ノ事務分配ハ地方裁判所長之ヲ定ムルモ地方ノ裁判所ニ於テハ專擅ノコトナカラシムル爲メニ特ニ會議ニ於テ之レヲ定ムベキモノトス而シテ其會議ノ組織ハ所長部長及ヒ部ノ上席判事一人ヨリ成ル而シテ此會議ニハ所長其會長トナリテ決議スルモノニシテ決議ハ多數決ヲ以テ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル（第三項）

地方裁判所ノ各部長及ヒ部員ノ配置ニ關スルコトモ所長以下判事差支アルトキノ代理ニ關シテモ共ニ毎年前以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス而シテ是レ又タ合議ノ定ムル所ナリトス（第二項）

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スベシ（第四項）蓋シ所長モ等シク判事ノ一人ナレバ單ニ行政事務ヲ執ルノミヲ以テ足レリトセズ裁判事務ヲモ執ルベキモノナルガ故ニ所長ハ必ラズ民事若クハ刑事ノ一部長タルベキモノトス

○第二十三條　或ル部ニ於テ着手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認

ムルトキ同部員ナシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

（三六）本條ハ事務分配ニ付キ前二條ノ規定ノ例外トモ稱スベキモノナリ何ントナレバ事務ノ分配ハ通例毎司法年度ニ之ヲ定ムベキモノナレドモ本條ニ於テハ元來次ノ年度ニ屬スベキ事務ヲモ同一ノ判事ヲシテ取扱ハシムレバナリ其ノ次ノ年度ニ屬スベキ事務ヲモ同一ノ判事ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムル所以ハ例ヘバ一事件ニ付キ取調ノ爲メ長キ時間ヲ要シ其年度中ニ結了セザルモノアルニ當リ司法年度ノ變更ニ從ツテ其事件ノ担任者ヲモ更替セシムルコトアレバ更ラニ最初ヨリ其同一事件ノ取調ヲ爲サヽルベカラズ從ツテ無用ノ手數ト時間トヲ要スルノミナラズ證人ノ如キモ再ビ之ヲ裁判所ニ呼出サヽル可カラサレバ其迷惑モ亦尠少ナラザルベシ此等ノ不都合ヲ省ク爲メニ裁判所長ハ便利ト認ムルトキハ同一ノ判事ヲシテ取扱ハシムルナリ若シ夫レ通常ノ事件ニシテ他ノ判事ニ代ハラシムルモ差支ヲ生ゼザルモノニ付テハ司法年度ノ變更ニ從ヒ其事件ノ担任者モ變スベキハ勿論ナリ以上述ベタル事實ハ唯リ司法年度ノ變更ノ際ニノミ起ルニアラズシテ休暇ノ始ニ於テモ亦タ同一ナラサルベカラズ

然ルニ項ハ豫審判事ノ事務即チ豫審中ノ事件ニ關スル規定ニシテ前項ト同一ナリトス

○第二十四條　第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過ギ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非レバ司法年度中之ヲ變更セズ

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

(三七)第二十二條ノ規定ニ從ヒ一旦定マリタル事務ノ分配判事ノ配置ハ一司法年度ハ之ヲ變更スルコトヲ得ザルモノトス是レ事務錯雜ヲ來スコトヲ防グノ趣旨ナリトス然レドモ又絶對的ニ之ヲ許ルサズトスルトキハ反ツテ不都合ヲ來スベキヲ以テ或ル部ノ事務多キニ過ギ又ハ判事轉官退職疾病其他事故アリテ久シク欠務スル者等アリテ引續キ差支ヲ生ズルトキハ已ムヲ得ズ之ヲ變更スルヲ許ルス而シテ本條ニ休暇中ヲ除キトアルハ休暇中ハ本法第百三十條ニ定ムル休暇部ニ於テ一部ノ事務ヲ取扱フモノナレバナリ

第二項ハ裁判所ニハ民事ト刑事トヲ問ハズ其事件ノ多寡ニ應シテ一部若クハ二部以上ヲ設置スルモノナレバ現在ノ部ニ於テハ事件ノ多キニ過グルトキ司法大臣ノ適宜ナリト認ムルトキハ新ニ其部ヲ增設スルコトヲ得ルヲ定メタルモノナリ

○第二十五條　地方裁判所ノ判事差支ノ爲或事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ

其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其管轄區域內ノ區裁判所判事又豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

(三八)本條ハ地方裁判所ノ判事ニ差支アルトキ其代理判事ヲ定メタルモノニシテ其代理判事ハ第一ニ同裁判所內ノ判事ニ命スルモノナレドモ之レモ亦タ差支アルトキハ地方裁判所長ハ其ノ管轄區域內ノ區裁判所ノ判事又ハ豫備判事ニ命スルコトヲ得ルヲ定メタルモノトス而シテ豫備判事トハ本法第六十三條ニ規定セル新任ノ判事ニシテ闕位アルマデ豫備判事トシテ勤務スルコトヲ命ゼラレタルモノナリトス

區裁判所ニ付テハ他ノ代理區裁判所ヲ定メ置クヘキコトノ規定(第十三條第二項)アルモ地方裁判所ニハ之ニ類スル規定ナシ是レ蓋シ地方裁判所ニ於テハ其管轄內ノ區裁判所判事又ハ豫備判事數多アルヲ以テ一時ヲ塡補スルニ差支ナク別ニ代理裁判所ヲモ定ムルノ要ナキガ爲メナラン

○第二十六條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二　第二審トシテ

（イ）區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）區裁判所決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

（三九）地方裁判所ノ裁判權限ハ區裁判所及ビ其ノ他ノ裁判所ニ屬スルモノヲ除クノ外總テ民刑事件ノ第一審ノ裁判ヲ爲シ併セテ區裁判所ノ裁判ニ對スル第二審ノ裁判ヲモ爲スモノトス本條ハ民事訴訟ニ付其權限ヲ定ム左ニ之ヲ詳記セン

第一ニ第一審裁判所トシテハ地方裁判所ハ區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其他ノ請求ニ付キ裁判權ヲ有ス區裁判所ノ權限ニ屬スルモノヽ何タルカハ既ニ第二十七號ニ之ヲ述ベタル所ナリ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノトハ皇族ニ對スル民事訴訟ノコトヲ云フモノニシテ鄭重ニ取扱ハサルベカラサルヲ以テ之ヲ地方裁判所ノ權限外ニ置キタルモノトス此二者ヲ除キタル以外ノ請求ニ付テハ地方裁判所ハ總テ第一審トシテ其裁判權ヲ有ス由是觀之地方裁判所ノ管轄スベキ事件ハ第一財産權上ノ爭ニ屬セザル事件例ヘバ婚姻遺言相續等ニ關スル事件第二財産權上ノ爭ニシテ百圓ヲ超過シタル金額若クハ物ニ關スル事件但シ此内ヨリ特別ノ規定ニ依リ區裁判所ノ權限ニ屬セシメタルモノヲ除クノ二事項ニアリトス

第二ニ第二審裁判所トシテハ地方裁判所ハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴並ニ區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ニ付キ裁判權ヲ有ス控訴トハ第二審ト稱シ事實法律共ニ覆審ヲ求ムルノ方法ナリ換言スレバ第一審ノ裁判ト同一ノ手續ニ從フテ同一ノ

審理ヲ爲シ同一ノ爭点ニ對シテ裁判ヲ爲スモノナリ抗告トハ裁判所若クハ判事ノ爲シタル決定若クハ命令ニ對シ不服ヲ申立ツルノ道ニシテ上訴ノ一ニ屬ス控訴ハ判決ニ對スル不服申立ノ方法ナレドモ抗告ハ決定若クハ命令ニ對スル不服申立ノ方法ナリ判決ハ訴訟ノ本案ニ關スル裁判ニシテ決定若クハ命令ハ共ニ訴訟手續ニ關スル裁判ナリ故ニ控訴ト抗告トノ異ナルハ其攻擊ノ目的タル裁判ガ一ハ判決一ハ決定若クハ命令ナルノ点ニアルノミ而シテ控訴ハ一般ニ第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得レドモ抗告ハ否ラズ法律ノ明文ヲ以テ時ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ベキ旨ヲ示シタル場合ニ非レバ之ヲ爲スコトヲ得ズ是レ法律ニ定メタル抗告ト謂ヘル所以ナリトス詳細ハ訴訟法ニ讓ル

○第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セザル刑事訴訟

第二　第二審トシテ

(イ)　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ)　區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(四〇)本條ハ刑事訴訟ニ付キ地方裁判所ハ權限ヲ定ム地方裁判所ハ第一審トシテ他ノ裁判所ノ權限ニ屬セザル一切ノ刑事訴訟ニ付キ裁判權ヲ有スルノ側ラ又タ區裁判所ノ裁判ニ對スル第二審ノ裁判ヲ爲スモノトス左ニ之ヲ分チ論ズベシ

第一ニ第一審トシテ區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セザル刑事訴訟ニ付テ裁判權ヲ有ス區裁判所ノ權限ニ屬スル刑事訴訟ノ何タルカハ此ニ論ズルヲ要セサレドモ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ノ如何ハ之ヲ述ベサルベカラズ乃チ本法第五十條第二ニ之レカ規定アリ曰ク「刑法第二編第一章及第二章ノ重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮

以上ノ刑ニ該ルヘキ豫審又ハ裁判」ト蓋シ此事件ハ重大ナルモノナレバ特ニ大審院ノ權限ニ屬セシメタルモノナリ

第二ニ第二審トシテ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴並ニ區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ニ付キ裁判權ヲ有ス前條ニ説明シタルト同一ナレバ省ク

○第二十八條　地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

(四一)商人ノ破産事件ハ金額ノ多少ヲ問ハズ總テ地方裁判所ノ權限ニ屬セシム是レ破産ハ商人ノ身分ニ至大ナル影響ヲ及ボスベキモノナルヲ以テ區裁判所ヲシテ取扱ハシメサルニアリ破産ノ何モノタルヤニ付テハ舊商法第三編ニ規定スルトコロナレバ今此ニ述ベズ

○第二十九條　地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

(四二)非訟事件ノ何タルコト及ビ其ノ區裁判所ノ權限ニ屬スベキモノナルコトハ既ニ第二十八號ニ於テ述ベタル所ナリ而シテ非訟事件ノ裁判ハ判決ヲ以テセズ決定ヲ以テ之ヲ爲ス又タ非訟事件ニ關シテ命令ヲ爲スコトアリ而シテ區裁判所ノ爲シタル右ノ決定及ビ命令ニ對シテ法律ガ特ニ抗告ヲ許ルシタルトキハ其抗告ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ爲ス權限ヲ有ス決定ト命令トハ異ナル決定ハ裁判所協議シテ之ヲ爲スモノナレドモ命令ハ裁判長受命判事若クハ受託判事等一名ノ判事之ヲ爲スモノナリ(非訟事件手續第二十條乃至第二十五條民事訴訟法第四百五十五條以下參照)

○第三十條　地方裁判所ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フ範圍方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

(四三)地方裁判所ノ權限ハ第二十六條乃至第二十九條ニ規定スル所ナルガ尚ホ其權限並

ニ其ノ裁判權ヲ行フ範圍方法ニシテ本法ニ定ノサルモノハ民刑訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ルベキモノトス左レド今日未ダ其規定ヲ見サルコト區裁判所ニ於ケルト同ジ

○第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域內ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルガ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命ズルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ズ

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域內ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命ズルコトヲ得

代理ニ關スル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

（四四）本條ハ地方裁判所ノ支部ニ付キ規定ス乃チ地方裁判所ト其管轄內ノ區裁判所トノ間距離遠隔ナルカ又ハ交通ノ不便ナルトキハ事務上ノ便宜ヲ計リ司法大臣ノ適當ト認ムルトキハ其區裁判所ニ支部ヲ設置シ地方裁判所ニ屬スル民事及ヒ刑事ノ事務ノ一部分ヲ担當セシム左レバ支部タルモノハ地方裁判所ヨリ獨立シテ其權限ヲ有スルモノニ非ラズシテ單ニ地方裁判所ノ事務ノ分配ノ一タルヲ知ルベシ之ヲ譬フルニ恰モ支部ナルモノハ地方裁判所ノ部ヲ分離シタルカ如シ而シテ支部ハ現行司法省令ニ依レバ甲號支部ト乙號支部トノ二種アリ其權限少シク異ナリテ甲號支部ニ於テハ重罪公判及ヒ民刑事第二審ヲ

除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務ヲ取扱ヒ乙號支部ニ於テハ豫審ヲ要スルモノヽ外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム乃チ甲號支部ハ民事々件ヲ取扱ヘドモ乙號支部ハ之ヲ取扱ハズ甲號支部ニハ豫審アルモ乙號支部ニハ之ナキ等ノ差アリ而シテ支部ノ數ノ如キハ豫メ制限スル所ニアラサルナリ

支部ヲ組織スベキ判事ハ其支部ノ設置セラレタル區裁判所若クハ近隣ノ區裁判所ノ判事中ヨリ司法大臣之ヲ選任ス是レ專パラ經費ヲ省クノ趣旨ニ外ナラズ而シテ（第二項）支部ニ勤ムヘキ豫審判事及ビ檢事ヲ選任スルモ亦タ司法大臣ノ權內ニ屬ス（第三項）

司法大臣ガ豫審判事ヲ選任スルニハ其支部ノ設置セラレタル區裁判所ノ判事ヲ之ニ任ズルコトヲ得（第四項）

判事ニ差支アリテ事務ヲ取扱フ能ハサル場合ニ代理判事ヲ命ズルノ方法ハ第二十五條ノ規定スル所ニシテ同條ハ支部ニモ亦之ヲ適用スルハ當然ノ事ト云フベシ（第五項）

○第三十二條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法延ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ズ其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

（四五）第三條ニ定メラレタル如ク地方裁判所ハ合議裁判所ノ一ニシテ乃チ三人ノ判事立會ヒ審問裁判ス而シテ其ノ三人ノ內一人ヲ裁判長トシ訟廷內ノ諸般ノ事務ヲ指揮シ訴訟ノ進行ニ注意スベキ者トス他ノ二人ヲ陪席判事トシ裁判長ニ告ケテ問ヲ發スルコトヲ得詳細ハ訴訟法ニ讓ル而シテ豫備判事ハ決シテ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ許ルサズ是レ豫備判事ハ僅カニ欠員ヲ補フ爲メニ存スルモノナルノミナラズ未ダ事務ニ熟セザルモノナレバナリ豫備判事ガ列席スル場合ハ例ヘバ第二十五條ノ如シ

地方裁判所ノ事務ハ常ニ必ラズ三人ノ合議ニ依リテノミ爲スベキモノニアラズ訟廷ニ於テ審判スベキ事件ハ必ラズ三人ノ合議ニ依リテノミ爲スベキモノナレドモ其餘ノ事件ニ付テハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事單獨ニテ之ヲ取扱フコトヲ得例ヘバ豫審

事務ノ如キ證據調ヲ裁判所以外ニ於テ爲ストキノ如キ是ナリ

○第三十三條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ件ニ拘ハラズ特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

（四六）地方裁判所ニモ亦タ檢事局附置セラル其長ヲ檢事正ト云ヒ職務ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及ヒ監督スルニアリ而シテ其他ノ檢事ハ分配セラレタル事務ヲ取扱フニ付テハ判事ノ如ク各自獨立ナラズシテ上官ノ命令ニ從フベキ性質ノモノナレバ乃チ所謂檢事ハ同身一體トシテ働ラクベキモノナレバ特別ノ許可ナクシテ當然ニ檢事正ヲ代理スルコトヲ得ルモノトス

第四章　控訴院

○第三十四條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

（四七）如何ニ學識經驗兼ヲ備ヘタル裁判官ト雖モ亦タ人ニ外ナラサレバ時アリテカ誤謬ノ裁判ヲ爲スコトナキヲ保セズ然ルニ一度裁判所ノ裁判ヲ經タルトキハ復タ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズトセバ吾人ノ權利ハ如何ニシテ伸張セラルヽヲ得ン故ニ其裁判ニ對シテ上訴ノ方法ヲ以テ一等上級ノ裁判所ニ向ツテ不服ヲ申立ツルコトヲ許ルス控訴ハ上訴方法ノ一ニシテ第一審ノ判決ニ服セズ上級裁判所ニ向ツテ事實並ニ法律ノ点ニ付キ第一審ト同一ノ手續ニ依リ審理スルコトヲ乃チ覆審ヲ求ムル訴ナリトス蓋シ此制度タル第二審ノ裁判官ハ第一審ノ裁判官ニ比シ概チ學識經驗ニ富ミ加之ナラズ立會判事ノ員數モ多キヲ以テ是等ノ裁判官ヲシテ第一ノ審理ニ重ヌルニ更ラニ第二ノ審理ヲ以テセシムレバ事實益々明白トナリ隨ツテ眞正ノ裁判ヲ得ルニ庶幾ント信スルノ思想ニ出デタリ控訴院

ハ此覆審卽チ第二審ノ裁判ヲ爲スベキ合議裁判トス而シテ控訴院ニモ地方裁判所ト同ジク民事刑事ノ一部若クハ數部ヲ設置ス

○第三十五條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

(四八)控訴院ニ院長ヲ置クハ地方裁判所ニ所長ヲ置クト同ジク其事務權限モ亦タ同ジク又各部ニ部長ヲ置キテ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定メシムル如キ地方裁判所ニ關スル第二十條ノ規定ト總テ同一ナリ

○第三十六條　事務ノ分配及結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　前項ニ揭タル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ズ

(四九)控訴院ノ事務ノ分配及結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ地方裁判所ニ付テ規定セル第二十二條第二十三條及ヒ第二十五條ヲ適用スレドモ元來其權限ニ廣狹ノ差アルヲ以テ又

タ多少ノ變更ナキ能ハズ即チ第一號ニ於テハ右三條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ亦タ與フルコトヲ規定スレドモ第二號ニ於テ判事ノ代理ニ付テハ地方裁判所長ハ其管轄區域內ノ區裁判所ノ判事又ハ豫備判事ヲ其代理ニ命ズルモノナレドモ控訴院長ハ其控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シテ其裁判所ノ判事中ヨリ代理ヲ出スヘキコトヲ命スルコトヲ得ルモノトス尤モ豫備判事ハ之ヲ用ヰルコトヲ得サルナリ

○第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三　地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(五〇)本條ハ控訴院ノ裁判權限ヲ定ム控訴院ハ元來第二審裁判所ナレドモ又タ更ラニ第三審即チ終審ノ權限ヲモ有ス其第二審判裁判所トシテハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴ノ裁判ヲ爲シ其終審裁判所トシテハ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ裁判ヲ爲シ外ニ地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ノ裁判ヲ爲スモノトス

○第三十八條　皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

(五一)皇族ニ對スル對訟ハ一般ニ鄭重ヲ旨トシ刑事訴訟ニ付テハ第五十條ヲ以テ大審院ノ特別確限ニ屬セシメ民事訴訟ニ付テハ東京控訴院ヲシテ其第一審及ヒ第二審ノ裁判ヲ爲サシム然レドモ第一審ノ裁判ト第二審ノ裁判トハ合議裁判官ノ員數同一ナラズ(第四十一條)但シ第一審ノ訴訟手續ニ付キテハ地方裁判所ノ第一審手續ト異ナラサルナリ

○第三十九條　控訴院ノ權限並ニ其裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

（五二）控訴院ノ權限モ亦タ右ノ外訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル訴訟法ニ定メタル控訴院ノ權限ハ僅カニ刑事訴訟中ノ非常上告ノ一アルノミ（刑事訴訟法第二百九十條）區裁判所ノ第一審ノ裁判ニ對シテ控訴ヲ爲サズシテ確定シタル判決若クハ區裁判所ノ第一審ノ裁判ニ對シテ控訴シ地方裁判所ノ第二審ノ判決ヲ受ケ上告ヲ爲サズシテ確定シタル判決ガ若シ法律上罰スヘカラサルヲ罰シ或ハ法律上ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルトキハ其ノ判決確定セルニ拘ハラズ上告裁判所即チ控訴院ノ檢事ハ其裁判ヲ破毀シテ更ラニ相當ノ裁判ヲサ爲ンコトヲ其院ニ請求スルヿヲ得之ヲ非常上告ト云フ又特別法ニ定メタルモノニ付キテハ衆議院議員選擧法ニ於ケル選擧訴訟及ヒ當選訴訟ノ如キ其一例タリ同法第八十條ニ選擧ノ効力ニ關シ異議アル選擧人ハ選擧長ヲ被告トシテ選擧ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得トアリ同第八十二條ニ當選ヲ失ヒタル者當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシテ當選人ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得トアル之ナリ

○第四十條　控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

（五三）控訴院ニ於テハ五人ノ判事立會ヒ合議シテ審判ス其五人ノ中一人ヲ裁判長トナス尤モ訴訟法ニ定ムル或ル事件ニ付テハ一人ノ判事之ヲ爲ス場合アルベキハ地方裁判所ニ關スル第三十二條ノ說明ニ述ベタル如シ

本法ノ合議制ニ於テ其立會ヒ判事ノ員數地方裁判所ハ三人ナルカ如ク控訴院モ亦五名ノ奇數ヲ採ルハ合議ノ際多數決ヲ採ル便宜ニ出デタルモノトス

○第四十一條　第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ審問裁判ス其五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

(五四)本條ハ皇族ニ對スル民事訴訟ニ於テ第一審ト第二審トハ其立會判事ノ員數ヲ異ニスルコトヲ定ムルモノニシテ即チ第一審ニ於テハ五名第二審ニ於テハ七名トシ其判事中ノ一名ヲ裁判長トナス

○第四十二條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長並ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

(五五)控訴院ニモ亦タ檢事局附置セラレ其長ヲ檢事長ト云フ檢事長其他ノ檢事ノ職權ハ第三十三條ニ述ベタルト同ジ

第五章　大審院

○第四十三條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

(五六)我國ノ裁判制度ハ三審級ニシテ事實ノ判定ハ第二審タル控訴院マデニ止マリ第三審即チ終審タル上告裁判所ニ於テハ單ニ第二審ノ裁判ハ法律ノ適用其當ヲ得タルヤ否ヤヲ審判スヘク毫末モ事實ノ判定ニ渉ラザルモノトス大審院ハ我國最高ノ裁判所ニシテ專ラ上告ノ裁判ヲ爲ス而シテ大審院ハ全國法律ノ解釋ヲ統一ナラシムル爲メニ設置セラレタル者ナレバ勿論唯一アルノミ此点ニ關シテ一言セザルベカラズ明治八年始メテ我國ニ大審院創置セラレタルハ主トシテ佛國破毀院ノ制ニ倣ヒ專ラ法律ノ適用ヲ監査シ其解

釋ノ統一ヲ計ルガ爲メニシテ明治二十三年本法實施ノ時ニ至ルマデハ依然トシテ變セズ唯一ノ大審院唯リ上告審判ノ權ヲ掌握シタリ然ルニ本法ハ範ヲ獨逸ノ制度ニ採リタルモノナレバ前章ニ述ベタル如ク上告審判ノ權ヲ大審院ノ外各控訴院ニモ分屬セリ左レバ現時ニ於テハ大審院ノ外七個ノ上告裁判所アリテ各法律ノ解釋ヲ異ニシ得ベク其ノ統一ハ到底望ムベカラザルニ至レリ故ニ斷然此制ヲ改メ復タ明治八年設置ノ趣旨ニ從ヒ大審院ノミ上告ノ審判ヲ爲スコトヽスベシト論ズルモノアリ蓋シ至當ナリト云フベシ

大審院ノ合議裁判所ノ一ナルコトハ勿論ナリトス而シテ大審院ニ於テモ亦タ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設クベキモノトス

○第四十四條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

(五七)本條ノ制定ハ地方裁判所ニ對スル第二十條及ヒ控訴院ニ對スル第三十五條ノ規定ニ等シケレバ重ネテ説明セズ

○第四十五條　大審院ノ事務分配並ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セレトスル部ヲ指定スベシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ

爲サシムルコトヲ得

（五八）本條ハ大審院ノ事務ノ分配並ニ代理ノ順序等ニ關スル規定ナレドモ部員ノ配置ニ付テ何ノ規定ナキ所以ハ大審院ニ於テハ部員ハ常ニ其位置一定シテ時々變更スルガ如キコト尠クレバナリ其他ニ付テハ別ニ說明ヲ要セズ

○第四十六條　大審院ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコト得

（五九）大審院ニ於テハ部員ノ配置ハ常ニ一定シテ定時ノ變更ナシ唯ダ何時ニテモ大審院長ノ意見ニ依リ變更スルノミ然レドモ其變更スル際ニハ部長若クハ部員ノ承諾ヲ經ザルベカラズ

○第四十七條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

（六〇）本條ノ規定ハ第二十三條及ヒ第二十四條ノ說明ニ依リテ明瞭ナレバ此ニ說明ヲ付セズ

○第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其訴訟一切事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

（六一）凡ソ裁判所ガ裁判スルニ當リテハ全ク獨立ノ意見ヲ以テ裁判スルヲ得ベク何人ヨリモ羈束セラレザルヲ本旨トス然レドモ本條ニ依レバ法律ノ點ニ關シ大審院ノ表シタル意見ハ其下級ノ總テノ裁判所ヲ羈束スル効力アルモノトス故ニ事實ノ點ニ關シテハ下級裁判所ハ大審院ノ認定ヲ變更スルコトヲ得レドモ法律ノ點ニ關シテハ下級裁判所ハ大審院ノ表シタル意見ニ反對ノ決定ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス是レ大審院ハ全國法律ノ適用ノ統一ナラシムル所ナレバ其裁判所ノ性質上然ラサル可カラサルナリ然レドモ下級裁

判所ト雖モ亦タ獨立ノ裁判所ナレバ法律ノ點ニ付テ大審院ノ表シタル意見ニ羈束セラルヽハ其當該訴訟事件ノ一ニ止マリ之ヲ他ニ推及スルコトヲ得ズ左レバ下級裁判所ハ他日同種ノ事件ニ接スルモ必シモ大審院ノ意見ニ遵由スルコトヲ要セザルモノトス勿論是レ純理上ノ議論ニシテ實際ニ於テハ大審院ノ意見ハ正確ニシテ下級裁判所ノ意見ニ優ルベクレバ下級裁判所ハ設ヘ當該事件ニ非ルモ苟モ同種ノ事件ナルトキハ大審院ノ意見ニ從フヲ可トス若シ然ラズシテ常ニ反對ノ決定ヲ爲ストキハ徒ラニ當事者ヲシテ上訴ノ道ヲ得セシメ遂ニハ法律適用ノ統一ヲ缺クニ至ルベケレバナリ

(六二)控訴院ガ上告裁判所トシテ法律ノ点ニ付キ表示シタル意見ハ其ノ下級裁判所ヲ羈束スベキカ本法ハ大審院ノ意見ニ付キ右ノ規定ヲ設ケタルニ拘ハラズ控訴院ノ意見ニ付キテハ何等ノ規定ナシ然レドモ大審院ト云ヒ控訴院ト云ヒ共ニ上告裁判所ナレバ其判決ノ効力ニ付キ彼此異ナルベキ理由ナキヲ以テ控訴院ノ意見モ亦タ下級裁判所ヲ羈束スベキモノト解セザルベカラズ

○第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ点ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ビ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

(六三)凡ソ裁判ノ効力ハ其事件限リ他ニ及バザルヲ原則トスレドモ大審院ノ判決ハ全國裁判官ノ模範ト爲リ幾ンド法律ト同一ノ價値ヲ有ス故ニ大審院長ハ其院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後曾ツテ一若クハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相異リタル意見ヲ有スルコトヲ知リタルトキハ其事件ノ性質ニ因リ或ハ民事ノ總部或ハ刑事ノ總部或ハ民事刑事ノ總部ニ命ジテ聯合審判ヲ爲サシムルコトヲ得是レ各部ノ意見ヲ一定シ以テ模範

ノ實ヲ擧ゲンガ爲メナリ

○第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非ル控訴院ノ判決ニ對スル上告

（ロ）控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二　第一審トシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ラニ重キ刑ニ處スヘキモノヽ豫審及裁判

（六四）本條ハ大審院ノ權限ヲ規定シタルモノニシテ即チ第一ニ終審ノ裁判ヲ爲シ第二ニ

一審ニシテ終審ヲ兼ヌタル裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

第一ニ大審院ハ終審ノ裁判所ナルガ故ニ其一ハ控訴院ノ第二審ノ判決（第三十七條第二項ニ依リ爲シタル判決及ビ第三十八條ノ第一審ノ判決ヲ除ク）ニ對スル上告ニ付キ其二ハ控訴院ノ決定及ビ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲スモノトス而シテ右ハ民刑事双方ヲ含ムモノナルコト勿論ナリトス

第二ニ大審院ハ第一審ニシテ終審ヲ兼ヌタル裁判ヲ爲ス之ヲ特別權限ト稱ス其一ハ刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪即チ皇室ニ對スル罪及ヒ國事ニ關スル罪ノ刑ニ處スベキモノ其二ハ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノニ付キ其豫審及ビ裁判ヲ爲スベキモノトス蓋シ是等ノ事件ハ其關係重大ナル爲メ又ハ皇族ニ對スル敬禮ヲ失ハザランガ爲メニ特ニ大審院ヲシテ其事件ノ豫審及ヒ裁判ヲ爲サシム其訴訟手續ニ付テハ刑事訴訟法第七編ニ特別ノ規定アリ而シテ大審院ハ右ノ事件ニ對シテハ一審ニテ裁判ヲ終結スルモノトス

○第五十一條　前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ズ

（六五）前條第二ニ掲ゲタル事件特ニ國事犯事件ノ如キハ往々帝都以外ニ發シ其徒黨亦タ夥多ナルコト多シ之ヲ一々帝都ニ護送スルハ勞費ニ堪ヘサルノミナラズ又タ其審問ヲ輩穀ノ下ニ公行スルハ却ツテ天下ノ人心ヲ動搖セシムル恐アリ左レバ事ニ隨ツテ其地方ノ裁判所ニ法廷ヲ開クハ極メテ當ヲ得タルモノニシテ特ニ豫審處分ニ付テハ非常ナル便宜アリ故ニ右等ノ事件ニ付テハ特ニ控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得セシム彼ノ有名ナル湖南事件ノ審判ガ大津地方裁判所ニ於テ開ラカレタルハ何人モ知ル

所ナリ而シテ此場合ニ控訴院ノ判事ヲ其部員ニ加フルコトヲ得レドモ其半數ニ滿ツルコトヲ許ルサヽルハ半數以上ヲ加フレバ其事件ヲ大審院ノ權限ニ屬セシメタル趣旨ヲ沒却スレバナリ

○第五十二條　大審院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此法律ニ定メザルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

（六六）大審院ノ權限ニ付テモ亦タ右ノ外訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ルベキモノニシテ非常上告ハ亦タ其適例タリ然レドモ現今之ニ關スル特別法ノアルヲ見ズ

○第五十三條　大審院ニ於テ訴訟ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

（六七）本條ハ地方裁判所ニ關スル第三十二條控訴院ニ對スル第四十條ノ規定ノ説明ニ依リテ明カナレバ説明ヲ省ク

○第五十四條　第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ判事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス

大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

（六八）第四十九條ノ規定ニ依ル聯合部ノ審問裁判ニ於テハ必シモ聯合部ノ判事全員列席スルヲ要セズ三分ノ二以上出席スルヲ以テ足レリトス是レ少クトモ九人以上ノ列席アルヲ以テ聯合決議ノ趣旨ヲ達スルコトヲ得レバナリ

第二項ニ付キテハ説明スベキコトナシ

○第五十五條　大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スベキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ズ但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

（六九）大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付テハ大審院長ハ其事件如何ニ輕微ナル場合ニ於テモ必ラズ豫審判事ヲ命ジ豫審ヲ爲サシメザルベカラズ而シテ其判事ハ必シモ大審院判事ニ限ラズ便宜ニ依リテハ控訴院又ハ地方裁判所ノ判事ニ之ヲ命スルコトヲ得ベキナリ

○第五十六條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長幷ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

(七〇)本條ハ大審院檢事局ニ付キ規定ス控訴院檢事局ニ付キ規定セル第四十二條ト同一趣旨ナレバ説明ヲ略ス

第二編　裁判所及檢事局ノ官吏

(七一)前編ハ裁判所及ビ檢事局ノ組織權限ヲ定メタルヲ以テ本編ハ其裁判所及ビ檢事局ヲ組成スル職員ノ資格任命等ヲ規定ス乃チ第一章ハ判事檢事ノ資格第二章ハ判事ノ補職權利義務第三章ハ檢事ノ補職權利義務第四章以下ニ於テ夫々裁判所書記執達吏及ビ廷丁ノ任命職務等ヲ規定ス

第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルヽニ必要ナル準備及資格

○第五十七條　判事又ハ檢事ニ任セラルヽニハ第六十五條ニ掲ケタル場合ヲ除キ二回ノ競爭試驗ヲ經ルコトヲ要ス

(七二)本條ノ規定ハ憲法第五十八條第一項ニ基ク同條ニ曰ク裁判官ハ法律ニ依リ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任スト蓋シ司法官ハ生殺與奪ノ權ヲ有シ其職責最モ重シトナス此ノ如キ重任ヲ負ヘル司法官タルニハ宜シク學識ニ富ミ經驗ヲ積ミタルモノナラザルベカラズ抑モ法ハ死物ニシテ人ニ依リテ行ハル法律如何ニ善美ナリト雖モ之ヲ運用スベキ司法官其人ヲ得ザルトキハ徒法空文ニ終ハルベキノミ況ンヤ法ノ欠点ハ人之ヲ補フコトヲ得ルモ人ノ無能ナルハ法之ヲ補フコトヲ得ザルニ於テオヤ又況ンヤ司法官ハ一タビ任ズレバ終身其官ヲ免スルコトヲ得ザルニ於テオヤ故ニ其選叙ヲ愼ミ學識經驗ヲ兼備シ操行ノ廉潔ナル士ヲ以テセザルベカラズ是レ唯リ判事ノミニアラズ檢事ニ於テモ同一ナラザルベカラズ於是カ本法ハ判事檢事タルニ必要ナル條件ヲ定メ先ヅ本條ヲ以テ判事檢事タルニハ二回ノ競爭試驗ヲ經ザルベカラズトセリ二回ノ競爭試驗トハ第一回ハ學識ノ試驗ニシテ第二回ハ實務ノ試驗トス此二回ノ試驗ニ及第シタル者ニ非レバ判事タリ檢事タル能ハザルモノトス但シ第六十五條ニ規定シタル場合ヲ除外セザルベカラザルハ同

條ノ規定ヲ一讀シテ知リ得ベシ

○第五十八條　志願者前條ノ競爭試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試驗ニ關ル細則ハ判事檢事登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試驗ニ及第シタル者ハ第二回試驗ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所及檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試驗規則中ニ之ヲ定ム

(七三)競爭試驗志願者ノ受驗ニ必要ナル資格並ニ試驗ニ關スル細則ハ判事檢事登用試驗規則中ニ司法大臣ノ定ムルモノニシテ同規則ハ明治二十四年五月司法省令第三號ヲ以テ發布セラル

第一回ノ試驗ニ及第シタル者ハ判事檢事タルニ必要ナル學識ヲ具フルモノナレバ其レヨ

リ三年間試補トシテ裁判所及檢事局ニ於テ實地ニ就ヒテ實務ヲ修習シ而シテ後初メテ第二回試驗ヲ受ケ實務ノ修習十分ナルヤ否ヲ試驗セラルヽモノトス而シテ右修習ニ關ル細則モ亦タ前記試驗規則中ニ定メラル

○第五十九條　司法大臣ハ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得此罷免ニ關ル細則モ亦試驗規則中ニ之ヲ定ム

(七四)第一回試驗ニ及第シタル者第二回試驗ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所又ハ檢事局ニ於テ實地修習中其操行脩マラザル等ノ爲メ將來判事又ハ檢事タルニ適セズト認メラレシ時ハ司法大臣ハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得此罷免ニ關ル細則モ亦タ前記規則中ニ定メラル

○第六十條　一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督ス

ル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

(七五)本條ハ試補修習中ノ職務ヲ定メタルモノトス元來試補ハ實務ノ修習ヲ爲スモノナレバ職務ノ有スル者ニ非ラズト雖モ一年以上修習シタル者ハ次條ニ規定セル制限ノ下ニ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得ルモノトス即チ試補ハ其修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキハ區裁判所ニ於テ執務スルコトヲ得ベク又タ豫審判事若クハ地方裁判所ノ受命判事ノ命ニ依リ其事務ヲ助クルコトヲモ得ベキナリ

試補ガ區裁判所ノ檢事代理ヲ命ゼラルベキコトアルハ既ニ第十八條二項ノ說明ニ述ベタル所ニシテ又タ書記ノ事務ヲ臨時取扱フコトアルベキハ第九十二條ノ規定スル所ナリ

○第六十一條　試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セズ

第一　訴訟事件ト非訟事件トニ拘ハラズ裁判ヲ爲ス事

第二　證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三　登記ヲ爲ス事

(七六)試補ハ一年以上修習ヲ爲シタル後ハ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得ルコト前條規定スル如クナレドモ試補ハ所謂試補ニシテ未タ裁判官タラザルモノナルヲ以テ裁判ヲ爲シ證據ヲ取調ラベ又ハ登記ヲ爲スコトヲ許ルサズ蓋シ是等ノ事務ハ人民ノ權利ニ至大ノ關係ヲ及ボスベキモノナレバナリ

○第六十二條　第二回ノ競爭試驗ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任ゼラルヽコトヲ得

(七七)本條ハ判事又ハ檢事ノ任命ヲ規定ス即チ第一回試驗ニ及第シテ試補トナリ三年間ノ實地修習ヲ爲シタル後ニ第二同試驗ニ應ジ實務ノ修習モ亦タ十分ナリト認メラレタル者ハ初メテ判事又ハ檢事ニ任命セラルヽナリ

○第六十三條　新任ノ判事又ハ檢事ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ闕位アルマデ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ此等裁判所ノ檢事局ニ用ヰ

(七八)新任ノ判事又ハ檢事ハ直チニ其職務アルニ非ラズ補欠ノ生ズルニ當リテ始メテ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其檢事局ノ檢事ニ補セラルヽモノトス官名ト職名ト區別スルヲ要ス例ヘバ判事若クハ檢事ト云フハ官名ニシテ大審院長若クハ檢事總長ト云フハ職名ナルガ如シ而シテ新任ノ判事若クハ檢事ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ其檢事局ノ檢事ニ限リ補スルハ大審院及控訴院ノ判事又ハ檢事ト爲ルニハ法律ニ定ムル年數ヲ經過セザレバ之ニ任用セラルヽコトヲ得ズ

又新任ノ判事若クハ檢事ハ闕位アルマデ司法大臣ハ之ヲ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ此等ノ裁判所ノ檢事局ニ用ヰルコトアルナリ其豫備判檢事ノ如何ナルモノナルヤハ次條ニ規定スル所ナリ

○第六十四條　區裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ズ且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコト

ヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

(七九)第一項ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ヲシテ判事又ハ檢事ノ代理ヲ爲サシムルコトアル場合ヲ規定ス卽チ判事又ハ檢事ニ差支アリテ且ツ之ヲ代理スル判事又ハ檢事アラサルトキハ司法大臣ノ豫備判事若ハ豫備檢事ヲシテ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得但シ第三十二條ノ制限ニ從ヒ地方裁判所ニ於テ三人ノ列席判事合議裁判スルニ當リテハ如何ナル事情アルモ豫備判事二人以上ヲ列席セシムルヲ得ザルモノトス

第二項區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位ノ生ゼントキ例

ヘバ病氣其他ノ事故ニ生ゼシ闕位ナレドモ單ニ一時ニ止マルベキトキ事法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲシテ其闕位ヲ充サシムルコトヲ得ルコトヲ定メタリ

○第六十五條　三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ揭ケタル試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任ゼラルヽコトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試驗ヲ經スシテ試補ニ命ゼラルヽコトヲ得

(八〇)第一項ハ二回ノ競爭試驗ヲ要セズシテ直チニ判事檢事ニ任命セラルヽ者ノ資格ヲ定メテ三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タリシ者ハ此資格ヲ有ストセリ蓋シ是等ノ者ハ法律上ノ學識ニ富ミ若ハ實務ノ經驗ヲ有スル者ニシテ更ラニ其學識及ビ經驗ヲ試驗スル必要ナケレバナリ

第二項ハ法科大學卒業生ハ第一回試驗ヲ要セズシテ試補ニ任用セラルヽヲ得ルコトヲ定ム法科大學卒業生ハ法律上ノ學識ニ於テハ堪能ナルベキニ之ヲモ尚ホ第一回ノ試驗ヲ經テ學識ヲ試驗スルコトヲ要ストスルハ頗ブル權衡ヲ失スレバナリ

○第六十六條　左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得ス

第一　重罪ヲ記シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

(八一)本條ニ該當スル者ハ決シテ判事又ハ檢事ト爲ルコトヲ得ズ即チ第一ニ掲グタル重罪犯者ノ如キハ固ヨリ破廉恥ノ甚ダシキモノナルノミナラズ刑法ニ於テ終身公權ヲ剝奪

セラルヽ者ナレバ生殺與奪ノ大權ヲ握レル判檢事タラシムベカラザルヤ論ナシ但シ重罪犯者ト雖モ國事犯者ハ元ト忠誠ノ至情ニ發スルモノナレバ一旦其ノ罪ニ處セラルヽモ復權ヲ得タル者ニハ其資格ヲ剝奪セズ又第二ニ掲グタル定役ニ服スベキ輕罪ヲ犯シタル者モ亦タ廉恥ヲ破ルモノナレバ判事又ハ檢事タルヲ得ズ其定役ナキ輕罪ヲ犯シタル者ハ一般ニ破廉恥罪ナラザルヲ以テ其資格アルモノトス又タ第三ノ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レザル者ノ如キハ其操行ノ修マラザルヲ證シ且ツ數多ノ負債ノ爲メ其裁判公平ヲ缺クノ恐アルヲ以テ其ノ資格ナキモノトス

第二章　判事

○第六十七條　判事ハ敕任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス

(八二)本條ハ判事ノ官等又任期ヲ定メタル者ニシテ其官等ハ敕任又ハ奏任トシ其任期ヲ終身トス此ニ任官ヲ終身トズトアルハ憲法第五十八條第二項ニ於ケル裁判官ハ刑法ノ宣

告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職務ヲ免セラルヽコトナシトアル保障ヲ確メタルモノニ外ナラズ

○第六十八條　大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

(八三)本條ハ判事補職ノ方法ヲ定メタルモノニシテ大審院長ハ全國裁判官ノ首班ニ在ル者ナレバ勅任判事中ヨリ天皇陛下親シク之ヲ補シ各控訴院長及ビ大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣ノ職權ヲ以テ之ヲ補スルモノトス

○第六十九條　五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非レバ控訴院判事ニ補セラルコトヲ得ズ

(八四)本條ハ控訴院判事タルニ必要ナル年限ヲ定メタルモノニシテ五年以上判事タリシ者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事タリシ者ニ非レバ控訴院判事ニ補セラルコトヲ得ズトス蓋シ控訴院ハ地方裁判所ヨリ高等ノ裁判所ナレバ其判事モ亦タ高等ノ學識經驗ヲ要スレバナリ

○第七十條　十年以上判事タルモノ又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非レバ大審院判事ニ補セラルコトヲ得ズ

(八五)本條ハ大審院判事タルニ必要ナル年限ヲ定メタルモノニシテ其ノ控訴院ニ比シテ五年ヲ增シタルハ大審院ハ帝國最高ノ裁判所ニシテ其補職ニ一層ノ鄭重ヲ加フルヲ要スレバナリ

○第七十一條　第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マデ各々其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

（八六）本條ハ前二條ニ制限セシ控訴院判事及大審院判事タルニ要スル五年若ハ十年ノ算定方法ヲ定メ引續キ其同一職ニ從事シタルコトヲ要セザルモノトセリ左レバ初メ法科大學教授ニシテ次ニ辯護士ト爲リ終リニ判事ト爲ルモ各在職間ノ年數ヲ計算シテ五年若クハ十年ニ滿ツレバ足レルモノトス

○第七十二條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ズ

第一　公然政事ニ關スル事

第二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四　商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

（八七）本條ハ判事ノ在職中ニ爲スコトヲ得サル諸件ヲ定メタルモノニシテ第一ハ公然政事ニ關係スル事例ヘバ政談演說ヲ爲シ政事ニ關スル事項ヲ著述刊行スルガ如シ又タ衆議院議員ノ被選擧權ナキコトハ衆議院議員選擧法ノ規定スル所ナリ第二ハ政黨員又ハ政社員ト爲ルコトヲ得ズ又タ府縣郡市町村ノ議會ノ議員ト爲ルコトヲ得ザルハ府縣制以下ニモ規定スル所ナリ第三ハ俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコトヲ得ズ公務ニ就ノトハ廣義ニシテ官ノ事務ノミナラズ會社銀行員ト爲ルコトヲモ包含スルモノナリ第四ハ商業ヲ營ミ又ハ其他ノ行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコトヲ得ズ要スルニ第一第二ハ裁判官ノ獨立ヲ計リ政黨等ニ左右セラレザラシメンガ爲メニシテ第三第

四ハ財産上ノ利益ヲ目的トスル行爲ヲ爲スヨリ自然裁判ノ公平ヲ維持スル能ハサルベキヲ恐レテナリ

○第七十三條　第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非レバ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルヽコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルヽハ此ノ限ニ在ラズ

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ル停職ニ關係アルコトナシ

（八八）司法權ノ獨立ハ裁判所ノ獨立ヲテ得初メテ確保セラルモノトス裁判所ノ獨立ハ裁判官ノ地位ヲ安固ナラシメ容易ニ其官職ヲ罷免セサルニ外ナラズ故ニ第七十四條ニ定ムル身體若ハ精神ノ衰弱等ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リシトキト第七十五條ノ裁判所ノ組織變更ノ場合ヲ除キテハ刑事裁判ノ言渡又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非レバ其意ニ反シテ其官職ヲ免セラルコトナキノミナラズ轉官即チ判事ヨリ檢事其他ノ官吏ニ轉セシメラレ又ハ轉所即チ勤務スル裁判所ヲ轉ゼラレ又ハ判事ノ職務執行ヲ停止セラレ又ハ減俸セラルヽ等ノ事ナキモノトス是レ憲法第五十八條第二項ノ保障ヲ一層明確ニ規定シタルモノナリ然レドモ豫備判事タル間又ハ補闕ノ必要ナル場合ニ於テハ轉所ヲ命ゼラルヽコトアルナリ

（八九）懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトハ憲法第五十八條第三項ノ規定スル所ニシテ之ニ由リ生シタル法律ハ現行ノ判事懲戒法（明治二十三年八月法律第六十八號）ナリ左レバ此ニ懲戒ノ處分トアルハ右判事懲戒法ニ因ル懲戒ノ處分ナラザルベカラズ其法ニ依レバ凡ソ判事ヲ懲戒スルニハ其判事ガ第一ニ職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキガ第二ニ官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フベキ所爲アリタルトキカ何レカノ場合ニ於テ特設ノ懲戒裁判所ノ裁判ヲ以テセザルベカラズ而シテ懲戒裁判所ハ各控訴院及大審院ニ之

ヲ置キ其懲罰ハ譴責減俸轉所停職免職ノ五種トス

(九〇)前項ニ定ムル判事ノ停職ハ懲戒ニ關スル取調中又ハ刑事上ノ訴追ヲ受クルノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ルス判事ノ停職ト關係ヲ有セズ左レバ判事懲戒法ニ右ノ如キ判事ノ職務停止ノ規定アルモ夫ハ前項ノ保障ノ限ニアラズト知ルベシ

○第七十四條　判事身体若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ニ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命ズルコトヲ得

(九一)本條ハ或ル場合ニ判事ニ退職ヲ命ズルコトヲ定ム即チ判事ハ其官終身ナレドモ其職ハ終身勤務スルコトヲ得ベキモノニ非ルヲ以テ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ其職ニ堪ヘサルニ至ル時ハ司法大臣ハ之ヲ退職セシムルヲ得然レドモ司法大臣ハ擅ニ退職ヲ命ジ得ベキニアラズ必ラズ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依ラザルベカラザルモノトシ其手

續ヲ鄭重ニス

○第七十五條　法律ヲ以テ裁判所ノ組職ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

(九二)本條ハ法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止シタル場合ニ於テ若シ判事ニ多少ノ冗員ヲ生ジタルトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルコトヲ得ル旨ヲ定ム

○第七十六條　判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

(九三)本條別ニ説明ヲ要セズ

○第七十七條　判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

(九四)本條ハ判事ニ恩給ヲ受クルノ權アルコトヲ規定シタルモノニシテ此亦タ別ニ説明ヲ要セズ(明治二十三年六月法律第四十三號官吏恩給法參照)

○第七十八條　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ判事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ハラズ引續キ之ヲ給ス

(九五)判事ハ懲戒法ニ依リ懲戒取調ヲ受ケ若ハ刑事ニ訴追セラレシ爲メ停職スルコトアルモ其俸給ハ引續キ之ヲ受ク是レ判事ノ獨立ヲ重ジ大ニ優遇シタル所ナリトス

第三章　檢事

○第七十九條　檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長及檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅仕檢事中ヨリ之ヲ補ス

其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

(九六)檢事ト判事トハ其地位大體ニ於テ差異カキヲ以テ其官等モ亦同ジク敕任又ハ奏任トス其補任ニ至ツテモ檢事ニハ天皇ノ親補ナキノ外判事ト異ナラズ即チ大審院ニ於ケル檢事總長ノ職及控訴院ニ於ケル檢事長ノ職ハ司法大臣ヨリ上奏シ内閣總理大臣勅命ヲ奏ジテ勅任檢事中ヨリ之ヲ補シ其他ノ檢事ノ職ハ司法大臣ノ職權ヲ以テ之ヲ補スルモノトス而シテ檢事ノ官等俸給及進級ニ關ル規定ハ判事ニ於ケルト同一ニ勅令ヲ以テ之ヲ定メ其退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受クルカ如キキモ亦タ判事ト同一ナリ

○第八十條　檢事ハ刑法ノ官告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非レバ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

(九七)本條ハ判事ニ對スル第七十三條ト其精神同一ニシテ檢事ノ終身官タルコトヲ定メ

タルモノトス此ニ免職トハ唯リ職ノミナラズ官ヲモ包含スルモノニシテ免職ト云ヘバ官職共ニ免ガラルヽモノトス而シテ此ニ懲戒ノ處分トアルハ勅令ニ依リテ定メラレタル普通ノ文官懲戒令ニ依ル懲戒ノ處分ヲ謂フ彼ノ判事ノ判事懲戒法ニ依ラザルベカラザルトハ異ルナリ

然レドモ檢事ノ終身タルコトハ判事ノ終身タルコトヽ多少ノ差異ナキニアラズ即チ第一ニ判事終身タルコトハ憲法ノ保障スル所ナレドモ檢事ノ終身タルコトハ單ニ法律ノ保障ニ過ギス從ツテ判事ノ終身タルコトハ憲法ノ改正ニ依ルニ非レバ法律ヲ以テスルモ勅令ヲ以テスルモ之ヲ改ムル能ハザレドモ檢事ノ終身タルコトハ法律若クハ法律ニ代ハルベキ勅令ヲ以テ改廢スルコトヲ得ベキナリ第二ニ判事ハ刑事裁判ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外轉官轉所停職滅俸ヲ命セラルヽコトナキニ反シ檢事ハ刑事裁判ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニアラスシテ尚ホ轉官轉所停職滅俸ヲ命ゼラルヽアルベシ斯ノ如キ差異ノ存スル所以ハ畢竟判事ト檢事トハ其地位ヲ異ニスレバナリ即チ判事ハ最モ獨立ナルヲ要

スルモノナレバ其地位ヲ安固ニシ上長官鼻息ヲ窺ハシムルコトナク下人民ノ講托ヲ受ケシメズ不偏不黨一意專心ニ裁判事務ニ從ハシムルコトヲ要スルニ反シ檢事ハ行政官ニシテ上下一體ヲ爲シ其職務ヲ執ル一ニ上官ノ命ニ從フベキモノナレバ其地位ヲ安固ナラシムルコト判事ニ於ケルガ如クセンカ抗上ノ風ヲ生ズル恐アルノミナラズ怠漫曠職ノ弊ヲ生センコトアレバナリ

（九八）判事ト檢事トノ間ニハ其地位ノ安固ニ付キ右ノ如キ差異アルノミナラズ檢事ニハ判事ニ對スル第七十二條ノ如キ行爲ノ自由ヲ制限スル規定ナシ左レバ檢事ハ政談演說ヲ爲シ政事ニ關スル事項ヲ著述刊行シ政黨員又ハ政社員タルコトヲ得ベキモノト言ハザルベカラズ尤モ衆議院議員ヲ始メ其府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル能ハザルハ各法律ノ規定スル所トス其他尚ホ判事ハ控訴院又ハ大審院ノ判事ニ補セラルヽニハ五年又ハ十年ノ年限ヲ經ルヲ要スレドモ檢事ハ何時ニテモ控訴院又ハ大審院ノ檢事ニ補セラルルコトヲ得ル等ノ差異アリ

○第八十一條　檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ズ

（九九）抑モ檢事ハ公益ノ代表者ニシテ刑事ニアリテハ常ニ原告ノ地位ニアリ若シ之ヲシテ判事ノ裁判事務ニ干渉スルコトヲ許ルサバ自ラ訴ヘ自ラ裁判スルコトヽナリ其裁判ノ公平ヲ維持スル能ハザルヤ勿論ナリ左レバ本條ニ於テハ檢事ハ如何ナル事情アルモ判事ノ裁判事務ニ干渉スベカラザルヲ定メタリ

斯ク檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ固ヨリ判事ヲ代理スルコトヲ得ザレドモ判事ハ檢事ヲ代理スルコトアルハ既ニ第六條ノ說明ニ述ベタル所ナリトス

○第八十二條　檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

（一〇〇）檢事ハ公益ノ代表者トシテ專バラ犯罪者ヲ彈劾スル任ヲ有ス然ルニ檢事ニシテ怠慢ナルカ怯懦ナルカ故意ナルカ等ニ因リ犯罪ヲ爲シタル者ニ向ツテ公訴ヲ提起セザルカ如キコトアルカ如何ニシテ犯罪者彈劾ノ任務ヲ盡スコトヲ得ン之ガ救正ノ方法タル上官ノ命令ニ依リ公訴ヲ提起セシムルニアルノミ故ニ本條ニ於テハ檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フベキコトヲ定ム即チ檢事正ハ其ノ管下ノ檢事檢事長ハ其ノ管下ノ檢事正及ヒ檢事檢事總長ハ其ノ管下ノ檢事長檢事正及ヒ檢事司法大臣ハ各檢事ニ命令シ之ニ從ツテ處分セシムルコルヲ得斯ノ如ク檢事ハ上司法大臣ヨリ下區裁判所ノ檢事ニ至ルマデ上下脈絡ヲ通ジテ活動スル狀態ヲ指シテ人或ハ檢事ハ同心一體ヲ爲スト謂フ而シテ本條ハ檢事ニ特有ニシテ判事ニ絕無ナル規定ナリトス

○第八十三條　檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域內ニ於テ或ル檢事ノ取扱フベキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

(一〇一)檢事ハ同心一體ナルベキヲ以テ其職務ハ何人ニ於テ之ヲ取扱フモ妨ケナキモノトス故ニ檢事總長檢事長及ヒ檢事正ハ其管轄內裁判所ノ他ノ檢事ニ屬スル事務ヲ自ラ取扱フコトヲ得ベク又タ或ル檢事ノ事務ヲ他ノ檢事ニ移シテ取扱ハシムルコトヲモ得ベキコト勿論ナリトス

○第八十四條　司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域內ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及內務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

(一〇二)本條ハ檢事ノ手足タル司法警察官ハ如何ナルモノナルヤヲ定ム抑モ司法警察ト行政警察ニ對スル名稱ニシテ行政警察ハ犯罪ヲ未萌ニ豫防シ行政警察ハ犯罪ヲ已然ニ搜査ス換言スレバ行政警察ノ力能ク犯罪ヲ未萌ニ豫防スルニ足ラスシテ既ニ罪ヲ犯シタル者アルトキハ司法警察權之ニ代ハリテ犯罪ノ證惡及犯人ヲ搜査シ以テ公訴ノ提起實行ニ必要ナル資料ヲ蒐集スルナリ然リ而シテ公訴ハ檢事之ヲ行フモノナルヲ以テ犯罪ヲ搜査スル權卽チ司法警察權モ亦タ檢事ニ屬スベキコト勿論ナリ然レドモ檢事ハ其人員尠少ナルヲ以テ自ラ總テノ犯罪ヲ搜査スル能ハズ故ニ其補助官トシテ司法警察官ナル者ヲ設ケ檢事ノ指揮ヲ受ケ司法警察事務ヲ行ハシム

(一〇三)如何ナル者ヲ司法警察官ト爲スカ本條第二項ニ依レバ司法省又ハ檢事局ヨリ內務省ニ對シ或ハ司法省又ハ檢事局ヨリ地方官廳ニ對シ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ勤務スルモノヲ定ムベシトアリ蓋シ司法警察ト行政警察トハ各々其用ヲ異ニスルコト前段述ベタル加クナレドモ此二任務ハ同一人ヲシテ之ヲ兼管セシムルヲ可トス何シトナレバ同一人ニシテ此二任務ヲ帶ブルトキハ罪ヲ犯ス危險アル者例ヘバ平素奸惡ナル者前科アル者等ニハ常ニ注意ヲ怠ラズ以テ犯罪ヲ未萌ニ防グコ

トヲ得ベク若シ是等ノ者一旦犯罪ヲ爲シタルトキハ即時之ヲ逮捕スルガ如キ敏活ノ處置ヲ執ルコトヲ得ベケレバナリ此趣旨ニ由リ本法ニ於テモ行政警察官中ヨリ司法警察官トシテ勤務スル者ヲ定ムベキコトヽセリ而シテ刑事訴訟法第四十七條二項ニ於テハ司法警察官ナル者ヲ定メテ第一警視警部長警部第二憲兵將校下士第三島司第四郡長第五林務官第六市町村長トシ尙ホ同第四十八條ニ於テ漁船内ノ犯罪ニ付テハ船長モ亦タ司法警察官タルコトヲ定メタリ巡査憲兵卒ノ如キハ司法警察官タラズ但シ巡査ハ警部代理タルトキニ限リテ司法警察官タルベキコトハ別ニ布告ヲ以テ定メラレタリ

(一〇四)右ノ如ク行政警察官ヲシテ司法警察官ヲ兼ネシムルハ甚ダ便宜ナレドモ行政警察官ト中央ニアリテハ内務大臣地方ニアリテハ地方官廳ノ監督ノ下ニ立ツモノナレバ一面司法警察官トシテ檢事ノ監督ヲ受ケシメザルニ於テハ此等ノ者ハ常ニ行政權ノ下ニ隱レ檢事ノ命令ニ從ハズ甚ダシキハ檢事ノ措置ニ妨疑ヲ試ムルコトナシトセズ故ニ本法ニ於テハ此等ノ者ハ一面行政警察官トシテハ内務大臣地方官廳ノ監督ノ下ニ立チ一面司法警察官トシテハ司法大臣檢事總長檢事長檢事正檢事ノ指揮監督ヲ受クベキモノト爲シ若シ其命令ニ從ハザルカ怠慢曠職ナルトキハ司法大臣及ビ檢事ハ第四編ニ掲ゲタル條規ニ依リ之ヲ訓戒若クハ懲戒スルヲ得セシメタレドモ未ダ全ク右ノ弊ヲ脫セズ

第四章　裁判所書記

○第八十五條　裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲メ少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

(一〇五)本法第八條ニ書記課ノ事務ヲ規定セリ故ニ其ノ事務ノ繁閑多寡ニ從ヒ各裁判所ニ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

書記ハ裁判所ノ構成ニ必要ナリ故ニ區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ニハ必ス少クモ一人ノ書記ヲ置カザルベカラズ其員數ノ如キハ制限セズシテ相應ニ定ムベキモノ

トス

○第八十六條　地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

（一〇六）本條ハ監督書記及ビ書記長ヲ置クコト及ビ其任務ヲ定メタルモノトス

○第八十七條　書記其職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

（一〇七）本條ハ第十一條第四項ニ於テ判事ニ付ヒテ定メタルト等シク書記ノ取扱ヒタル事務ニシテ既定ノ事務分配上他ノ書記ニ屬スルモノナルトキモ故意ヲ以テ爲シタル場合ハ格別單ニ誤ツテ他ノ書記ニ屬スベキ事務ヲ取扱ヒタルノミノ事實ニテハ之ガ爲メ其取扱ノ効力ヲ失フコトナシト規定セリ是レ事務分配ノ事ノ如キ單ニ裁判所内部ノ手續ニ過ギザレバ之ヲ誤リタレバトテ其効力ヲ失ハシメ再ビ無用ノ手數ヲ爲ス必要ナケレバナリ尤モ其書記ノ取扱ヒタル事ハ其職務ノ範圍内ニ於ケルモノナラザルベカラザルハ勿論ナリトス

○第八十八條　書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス

書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

(一〇八)本條ハ書記及ビ書記長ノ任名及ビ補職ヲ定ム

○第八十九條　書記ニ任セラルヽニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試驗ヲ經ルトヲ要ス

志願者前項ノ試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試驗及試驗ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

(一〇九)書記ニ任命セラルヽニハ登用試驗ヲ經ルニトヲ要ス登用試驗ハ勅令ニ因ツテ定マル又其受驗ニ必要ナル資格並ニ試驗及ヒ試驗後ノ修習ニ關ル細則等ハ其登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ムルモノトス(明治二十四年五月司法省令第四號裁判所書記登用試驗規則參照)

○第九十條　書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラルヽコトヲ得

(一一〇)本條ハ豫備書記ニ付テ規定ス新ニ書記ニ任セラレタル者ハ恰モ新任ノ判事檢事ニ等シク必ラズ直チニ其職ニ補セラルヽコトナク其闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補セラル豫備書記ハ時トシテハ臨時ニ書記ノ勤務ヲ命ゼラルヽコトヲ得

○第九十一條　書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニテテ口述ノ書記ニ關ルカ又ハ書類記錄ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其調製者ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ掲タルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

（一一一）本條ハ書記ノ服從スベキ義務及ビ其職權ヲ定ム書記ハ判事檢事ノ補助ノ職員ナレバ其上官タル判事若クハ檢事ノ命令ニ從ハザルベカラザルハ勿論ニシテ合議裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從若單獨判事ナルトキハ其判事ノ命令ニ從ヒ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキハ其檢事局又ハ判事若クハ檢事ノ命令ニ從ハサルベカラズ是レ本條第一項乃至第三項ニ定ムル所ナリ

書記ハ上官ノ命令ニ從ハザルヲ以テ其上官ガ或ル事項ヲ書記スベキコトヲ命令シタルトキハ書記ハ其命令ニ從ヒ書記セザルベカラズ然レドモ書記スルコトハ實ニ書記ノ職權ニ屬シ上官ノ干渉スル能ハザルモノナルヲ以テ其命令正當ナラズト思料シタルトキハ書記ハ自己ノ意見ヲ其記載ニ附記スルコトヲ得是レ第四項ノ定ムル所ナリ

前四項ニ掲ケシ場合ヲ除ク外書記ノ職務及其事務取扱ノ方法等ニ付テハ司法大臣ノ定ムル規則ニ從ハザルベカラス

○第九十二條　合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

（一一二）本條ニ於テハ試補ハ其監督スル判事ノ命令アルトキハ臨時ニ書記ノ事務ヲ取扱

ハザルベカラザルコトヲ規定ス然レドモ元來書記スルコトハ試補ノ職權ニ屬セザルモノナルヲ以テ其署名ヲ要スル場合ニ於テハ特別ノ許可ヲ受ケザルベカラス

○第九十三條　豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

(一一三)既ニ第九十條ニ定メタル豫備書記ハ書記ノ事務ヲ取扱フニ於テハ書記ト異ナル所アラズ然レドモ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ之ニ從ハザルベカラズ

第五章　執達吏

○第九十四條　各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

(一一四)執達吏ノ員數ハ第九條ニ從ヒ適宜ニ之ヲ定ムルモノトス之ヲ各裁判所ニ置カザシテ特ニ區裁判所ニ置キタルハ區裁判所ハ唯タ執行裁判所ナルノミナラズ僻遠ノ地ニ遍キテ以テナリ而シテ地方裁判所控訴院及ビ大審院ヨリ發スル文書ハ其所在ノ地ノ區裁判所ニ囑スル執達吏之ヲ送達スルモノトス

○第九十五條　執達吏ハ司法大臣之ヲ任ジ及ヒ之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域內ノ裁判所ノ執達吏ヲ任ジ及ビ補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラルヽニ必要ナル資格並ニ試驗ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

(一一五)執達吏ノ任命及ビ補職ハ司法大臣之ヲ爲スモノナレドモ此等ノ權限ノ控訴院長ニ委任スルコトヲ得此委任ヲ大審院長ニ爲サズシテ控訴院長ニ爲シタルハ控訴院長ハ司法行政監督權ニ關シテハ大審院長ヨリ大ナル權限ヲ有スレバナリ

執達吏ニ任ゼラルヽニ必要ナル資格並ニ其登用試驗ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ムル

モノトス（明治二十三年八月司法省令第二號執達吏登用規則參照）

○第九十六條　執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

（一一六）執達吏ハ一般官吏ト異ナリ俸給ヲ受ケズシテ書類ノ送達若クハ裁判ノ執行ニ付キ其送達ヲ受クル者又ハ執行ヲ求ムル者ヨリ一定ノ手數料ヲ受クルモノトス而シテ其手數料一定ノ額ニ達セサルトキハ官ヨリ補助ヲ受ク現行執達吏規則第十九條ニ依レバ執達吏一年間ニ收入セシ手數料百八拾圓ニ充タサルトキハ國庫ヨリ其不足額ヲ支給ストアリ（明治二十三年七月法律第五二號執達吏手數料規則及ビ明治二十三年七月法律第五一號執達吏規則參照）

○第九十七條　執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ヲ管轄區域內ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

（一一七）執達吏ハ區裁判所ニ之ヲ置クト雖モ其職務ハ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域內ノ何レノ地ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得是レ一ニハ其職務執行地ノ區域ヲ擴クシテ以テ便宜ヲ得セシメ一ハ地方裁判所ハ執達吏ヲ置カザルヲ以テナリ

○第九十八條　裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要ススルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ルス場合ハ此ノ限ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官以テ執行ヲ爲サヽル場合限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

（一一八）本條ハ執達吏ノ權限ヲ定メタルモノニシテ即チ裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送

達ヲ要スルモノハ執達吏ヲシテ送達セシム然レドモ法律例ヘバ民事訴訟法ニ於テ書記ヨリ直接ニ(公示送達ノ場合)又ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ許ルシタル場合ハ各其方法ニ從フベキモノトス

又タ刑事裁判ノ執行ニ付キ警察官ヲシテ執行セシムルヲ要セサル場合ハ執達吏ヲシテ之ヲ執行セシム此ノ如キ場合ハ唯リ罰金科料ノ徵收ニ在ルノミ

以上ノ外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ニ於テ定メラル

○第九十九條　執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏職務細則並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

(一一九)執達吏ハ民事裁判ノ執行ヲ爲スニ當リテ債務者ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ競賣ニ付スル等訴訟人ノ財産ヲ處分スル場合多シ故ニ其確實ヲ擔保スル爲メ保證金ヲ納メ置クコトヲ要ス而シテ其金額及ビ之ニ關スル細則並ニ其職務規則等ハ司法大臣之ヲ定ムルモノナリ(執達吏登用規規參照)

○第百條　執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其書記ノ上官ノ命令ニ從フ

(一二〇)本條ハ執達吏ハ判事ノ命令ニ從フノミナラズ其判事ノ命ヲ受ケタル書記ノ命令ニモ亦タ從ハサル可カラサルコトヲ示セルモノナリ

第六章　廷丁

○第百一條　廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

(一二一)廷丁ハ任命ノ式ヲ用ヒズ所屬裁判所長之ヲ雇入レ及ビ解雇ス唯リ區裁判所ニ於

テハ地方裁判所長之ヲ爲スモノナリ

○第百二條　廷丁ハ開廷ニ出頭セシタメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハザルトキハ其ノ裁判所々在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

(一二二)本條ハ廷丁ノ職務ヲ定メタルモノニシテ即チ廷丁ハ當事者ニシテ裁判所ノ開廷ニ出頭セシメン及ビ司法大臣ノ定メタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱フベキモノトス

區裁判所ニ於テハ書類ヲ送達セシムルニ當リ執達吏ニ差支アルトキハ廷丁ヲ用ヰテ之ヲ送達セシムルコトヲ得ルモノトス

第三編　司法事務ノ取扱

(一二三)本編ハ司法事務取扱ノ要綱ヲ掲グ其詳細ハ民刑訴訟法ニ規定スル所タリ而シテ本編ニ規定スル所ハ第一章開廷第二章裁判所ノ用語第三章裁判所ノ評議及言渡第四章裁判所及檢事局ノ事務章程第五章司法年度及休暇第六章法律上ノ共助ノ六章ニシテ以下順次説明スベシ

第一章　開廷

○第百三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ハ事情ニ因リ必要ナリ認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

(一二四)本條ハ開廷ノ場所ヲ規定シ裁判所ノ法廷ハ民事ト刑事ヲ論ゼズ豫審ト公判トヲ問ハズ必ス裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ開カザルベカラズ是レ一ニハ法廷ニハ相當ノ施設ヲ缺クベカラザルト二ニハ政府ノ監督ニ便宜ナルトニ由ルモノナリ

法廷ハ必ラズ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ開ラクベキコト右ノ如クナレドモ司法大臣ハ人

ロノ多寡等ノ事情ニ由リ必要ナリト認メタルトキハ區裁判所ヲシテ其管轄區域内ニ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得ルナリ

○第百四條　訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

(一二五)本條ハ法廷ノ指揮等ヲ爲ス者ヲ規定スルモノニシテ第一項ハ訴訟審問ノ開廷ニ於テ其上席ヲ占メ及ビ訟廷内ノ指揮ヲ爲スノ權ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ單獨判事ニテ之ヲ爲スモノナレバ其開廷ヲ爲シタル判事ニ屬スベキコトヲ定メタリ

第二項裁判長ニ屬スル權卽チ前項ニ規定セル法廷ノ指揮其他訴訟法等ニテ裁判長ニ屬スル權ハ一人ニテ執務スル判事卽チ豫審判事受命判事受託判事等ニモ亦タ屬スルモノナルコトヲ定ム

○第百五條　裁判所ニ於テハ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡スト此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムベシ

(一二六)本條ハ裁判所ノ爲シタル對審ノ公開ヲ停ムル決議ニ付ヒテ規定スルモノニシテ帝國憲法第五九條ニ基ク同條ニ曰ク裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得ト故ニ對審判決ハ之ヲ公開シ公衆ノ前ニ於テ之ヲ行フヲ原則トスレドモ國事犯ニ關スル事件等ヲ公衆ニ傍聽セシムレバ安寧秩序ニ害スル虞アリ或ハ姦通等猥褻ニ涉ル犯罪ニ

付テハ之ヲ一般人民ニ傍聽セシムルトキハ一般ノ風俗ヲ壞ルノ虞アリ此等ノ虞アルトキハ例外トシテ法律又ハ裁判所ノ決議ニテ其對審ノ公開ヲ停メ公衆ノ傍聽ヲ禁ズルコトヲ得ベキナリ而シテ裁判所ニ於テ停止ノ決議ヲ爲シタルトキハ其理由例ヘバ事件ノ性質安寧秩序ヲ紊ルカ或ハ一般風俗ヲ壞ルカノ虞アルガ故ニ公開ヲ停止スル旨ヲ言渡シテ公衆ヲ退廷セシム然レドモ其對審ヲ終ハリテ判決スルニ當リテハ再ビ公衆ヲ入廷セシメサルベカラズ何ントナレバ判決ヲ公開スルノ原則ニ對シテハ憲法ニ於テモ例外ノ場合ヲ規定セザレバナリ

○第百六條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

（二二七）前條ニ依リ對審ノ公開ヲ停メタルトキト雖モ裁判長ハ其事件ノ關係若クハ其人ノ身分職業等ニ由リ之ヲ入廷セシムルコトヲ至當ト認メタルトキハ何時ニテモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ得而シテ前條ノ公開停止ハ裁判所ノ決議ニ由ルコトヲ要スレドモ本條ノ入廷特許ハ裁判所ノ決議ニ由ルヲ要セズ裁判長ノ意見ニ一任ス是レ蓋シ公開停止ハ原則ニ反スル重大事ナレバ裁判所ノ決議ヲ要スルモ入廷特許ハ元ト原則ニ回ヘルモノナレバ裁判長ノ專決ニ委スルモ可ナリト見タレバナリ

○第百七條　裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ着セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

（二二八）裁判ノ對審判決ノ公開ノトキト雖モ裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ着セザル者ヲ退廷セシムルコトヲ妨グズ蓋シ婦女兒童ノ如キハ訟廷內ノ靜謐ヲ破リ相當ノ衣服ヲ着セザル者ノ如キハ公廷內ノ風儀ヲ壞ルモノナレバナリ而シテ此場合ニハ其退廷セシメシ理由ヲ訴訟ノ記錄ニ記入シ置クコトヲ要ス

○第百八條　開廷中秩席ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

（一二九）訟廷ハ裁判官天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フ處ニシテ神聖侵スベカラザルモノトス故ニ訟廷内ノ秩序維持ノ全權ハ擧ゲテ之ヲ裁判長ノ權限ニ委シ如何ナル權力モ之ニ干渉スルコトヲ許ルサズ是ヲ以テ裁判長ハ訟廷内ノ秩序維持ノ爲メニ必要ナル行爲ハ總テ之ヲ爲スコトヲ得ベシ次條以下ニ規定スル所ハ亦タ其一部ニ過ギズ

○第百九條　裁判長ハ審問ヲ妨グル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノ時マデ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命ジ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許ルサズ且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

（一三〇）裁判長ハ訟廷内ニ在ツテ審問ヲ妨グル者若クハ不當ノ行狀ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ退廷セシムルノ權ヲ有スルハ第一項ノ規定スル所ナリ

加之右ノ如キ違犯者ノ行狀ニ因リ單ニ之ニ退廷ヲ命ズルノミニテハ足レリトセズ其自由ヲ拘束シ置ク必要アルトキハ裁判長ハ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマデ之ヲ勾留スルコトヲ命ズルヲ得ベシ而テ閉廷ノトキ之ヲ釋放シ若クハ五圓以下ノ罰金又ハ五日以内ノ拘留ニ處罰スルコトヲモ得ベキナリ此釋放若クハ處罰ハ裁判長ノ專決ヲ以テ之ヲ爲ス能ハズ裁判所ノ決定ニ依ルモノトス是レ第二項ノ定ムル所ナリ

右處罰ニ對シテハ上告スルコトヲ許セドモ控訴スルコトヲ許サズ蓋シ裁判官ノ目擊シタルコトハ最モ有力ナル證據ナレバ其證據ニ依リテ爲セシ處罰ノ裁判ニ對シテ控訴覆審ヲ

許ルス必要ナケレバナリ法律ノ見解ニ付テハ或ハ誤謬ナキヲ保セザレバ之ニ對シテ上告スルコトヲ許ルスモノナリ且ツ其違犯者ノ處爲重罪若クハ輕罪ニ該ルヘキモノナルトキハ刑事ノ訴追ヲモ爲スコトヲ得ベシ是レ本條ノ處罰ハ單ニ裁判官ノ權職ヨリ來ルモノナレバナリ

（百四十二）

○第百十條　前條ノ規定ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ開廷ヲ待タズシテ本條ノ違犯者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二　違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

（一三二）前條ノ處罰ハ當事者證人及ビ鑑定人ニモ又タヲ之適用ス然レドモマタ多少ノ差ナキ能ハズ即チ第一ニ當事者證人若ハ鑑定人ト前條ノ所爲アルトキハ閉廷ヲ待タズ即時ニ之ヲ處罰スルコトヲ得ベシ是レ此等ノ者ハ現ニ其事件ニ關係アル者ナレバ若シ之ヲ即時ニ罰セザレバ或ハ其審問ヲ中止セザルヲ得ザルニ至ルベケレバナリ第二ニ其違犯者原告ナルトキハ之ヲ即時ニ處罰セシ上仍ホ本人ヲ懲戒スルガ爲メニ本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シニ不敬ノ罪ヲ謝スルマデ其審問ヲ中止スルコトヲ得ベシ是レ審問中止ノ解ケザル間ハ訴訟永ク終結ニ至ラズ原告ノ不利甚ダシケレバ自然懲戒ノ法ニ適シタルモノナレバナリ

○第百十一條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

（百四十三）

（一三二）辯護士モ亦タ訟廷ニ於テ不當ノ言語ヲ用ヰタルトキハ裁判長ハ其事件ニ付テハ分讀キ辨論スルノ權ヲ禁止スルコトヲ得ベシ加之ナラズ尙ホ場合ニヨリテハ此行狀ニ付キ別ニ懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ得ベキナリ（明治二十六年三月法第七號辯護士法參照）

○第百十二條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス

受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

（一三三）第一項ハ訟廷ノ秩序ヲ組持スル爲メ第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ許ス固ヨリ當然ノ事ト云フベシ

第二項ニ於テ右ノ場合ニ於テ其裁判官ノ處置ニ異議アルトキハ二十四時間內ニ其判事又ハ試補ニ申出ツルコトヲ得ト定メタルハ若シ其判事又ハ試補ニシテ自ラ其異議ヲ理由アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得レバナリ

第三項ハ右異議ノ正當ナルヤ否ヤヲ裁判スベキ場所ヲ定ム

○第百十三條　第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ處爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ラニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

(一三四)第百九條乃至第百十二條ニ規定シタル處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入シ及ビ其各理由ヲ付記セザルベカラズ又右違犯者ノ處爲重罪若ハ輕罪ニ該ルベキモノナルカ或ハ懲戒法ニ依リテ罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ其事情ヲ記入シタル報告書ヲ作リ裁判長ハ其事件ヲ更ラニ處分スルノ權アル官廳ニ報告セザルベカラズ

○第百十四條　判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ着ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ着スルコトヲ要ス

(一三五)判事其他ノ官吏ハ訟廷ニ於テ一定ノ制服ヲ着セザル可カラザルハ各正當官吏タルコトヲ表ハシ且ツ威嚴ヲ公衆ニ示ス所以ナリ辨護士モ又タ一定ノ職服ヲ着スルコトヲ要ス其職服ト云ヒ制服ト云フハ單ニ官民ヲ區別スルニ過ギザルナリ

第二章　裁判所ノ用語

○第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヒルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

(一三六)本條ハ法廷ニ於ケル用語ヲ定メタルモノニシテ帝國裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウベキモノトス是レ當然言フヲ俟タザル所ニシテ若シ裁判所ニ於テ外國ノ言語ヲ用ヰルコトヲ許ルサンカ獨立國タル體面ヲ汚スコト蓋シ尠少ナラザルベシ故ニ必ラズ日本語ヲ用フベキコトヲ原則トス言語既ニ然リ況ンヤ文章ハ言語ノ粹ナルモノナレバ外國文ニ依

ルベカラザルハ知ルベキナリ然レドモ訴訟當事者證人又ハ鑑定人ニシテ外國人其他日本語ヲ解セザル者ナルトキハ民刑訴訟法又ハ特別法ニ於テ通事ヲ用ウルコトヲ定メタルトキニノミ通事ヲ用ユルコトヲ得ルナリ

○第百十六條　通事任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

（一三七）本條ハ別ニ說明ヲ要セズ

○第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルヽコトヲ得

（一三八）本條モ別ニ說明ヲ要セズ

○第百十八條　外國人當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長

便利ト認ムルトキ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

（一三九）本條ハ第百十五條ノ例外ニシテ訴訟ノ當事者外國人ニシテ其訴訟ニ參加スル者及其審問ニ參與スル官吏悉ク其外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ口頭審問ニ限リ其外國語ヲ用ユルコトヲ得是レ固ヨリ便宜ニ出デタル一變例ナレバ其審問ノ公正ノ記錄ハ仍日本語ヲ以テ作ラザルベカラズ

第三章　裁判所ノ評議及言渡

○第百十九條　合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

（一四〇）合議裁判所ノ裁判ハ各定數ノ判事立會ヒ裁判ス卽チ地方裁判所ニテハ三名控訴院ニテハ五名大審院ニテハ七名ノ判事立會ヒ審判スルコトヲ要ス若シ其定數ノ中一人ニ

テモ不足ナルトキハ設ヘ檢事其他訴訟關係人ニ異議ナキトキト雖モ其裁判ハ無効ナルモノトス

○第百二十條　四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事ノ一人ヲ命ジ之ニ立會ハムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

（一四一）合議裁判所ニ於テハ定數ノ判事立會ヒ審判スルコトヲ要シ若シ其定數ニ缺ク所アレバ其裁判ハ無効タルベキハ前條ニ述ベタル所ノ如シ然レドモ定數ノ判事立會ヒタルトキハ常ニ必シモ有効ナルニアラズ其裁判ニ干與スベキ定數ノ判事ハ其事件ノ審理ヨリ裁判ニ至ルマデ終始其人ヲ變ゼザルコトヲ要シ中途ニシテ判事ニ變更ヲ生ジタルトキハ總テ從前ノ手續ヲ無効トシ更ラニ審理ヲ新ニセザル可カラズ是レ極メテ不便ナレバ此不便ナカラシメンガ爲メニ本條ハ特ニ刑事ノ訴訟ニ付キ便宜ノ規定ヲ設ケ刑事事件ノ審問四日以上ニ亘ルヘキ見込アルトキハ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命ジ之ニ立會ハシメ若シ其立會判事中ニ差支其他疾病等ノ事故アリテ欠勤スル場合ニハ其補充判事ヲシテ之ニ代ハラシメ審問及ビ裁判ヲ完結セシムルコトヲ得ベキコトヲ定メタリ民事々件ニ付テ此規定ナキハ刑事ノ訴訟ハ多ク人身ノ自由ヲ拘束スルモノニシテ可及的急速ヲ要スト雖モ民事ノ訴訟ハ然ラザルニ因ル

○第百二十一條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セズ但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其裁判所長之ヲ開キ之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末並ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス

(一四二)審理及裁判言渡ハ之ヲ公行スト雖モ裁判ノ評議ハ之ヲ密行シ訴訟人ハ勿論檢事ト雖モ之ヲ傍聽スルニトヲ許ルサズ其然ル所以ハ若シ評議ヲ公行セバ衰願怒罵等種々ノ弊害ヲ生ズル恐アレバナリ然レドモ豫備判事又ハ試補ニハ傍聽ヲ許ルスコトヲ得ベシ是レ豫備判事又ハ試補ハ執務上之ヲ傍聽スル必要アレバナリ

裁判長ハ判事ノ評議ヲ開ラキ及ヒ之ヲ整理スルノ權ヲ有ス各判事ハ評議ノ顚末並ニ各判事ノ意見及ビ其意見ノ多數少數等一切ノ事情ヲ秘密ニセザルベカラズ是レ裁判宣告ノ前ニ於テ然ルノミナラズ宣告後ニ於テモ又同ジ並シ是等ノ事情外部ニ漏レ訴訟關係人ノ知ル所トナラバ判事ハ十分ニ其意見ヲ述ブルヲ得ベカラザルニ至ル恐アレバナリ

○第百二十二條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

(一四三)本條ハ判事評議ノ際其意見ヲ陳述スルノ順序ヲ定メタルモノニシテ官等ノ最モ低キ者ヲ始メトシ順次高キ者ニ及ビ裁判長ヲ以シ終トス若シ官等ノ同キトキハ年少ノ者ヨリ始ムベキモノトス是レ官等ノ低キ者ハ其高キ者ニ制セラレ忌憚ナク其意見ヲ陳述スル能ハザルベク然ラザルモ上班者ノ意見ニ雷同スルノ恐アレバナリ但シ特ニ一事項ニ付キ取調ノ命ヲ受ケタル判事ハ官等ノ高下年齡ノ多少ニ拘ハラズ先ヅ發言セシム是レ其判事ハ最モ良ク其事件ヲ熟知シ其意見ヲ聽クニ非レバ他ノ判事ハ其意見ヲ定ムル能ハザレバナリ

○第百二十三條　裁判ハ判事過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各々過半數ニ至ラザルトキハ過半數ニ至ルマデ最多數ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各々過半數ニ至ラザルトキハ

過半數ニ至ルマデ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

（一四四）裁判ハ判事過半數ノ意見ニ依リテ決ス故ニ裁判ノ決議ハ彼ノ所謂比較上ノ多數決ナルモノト異ナル比較上ノ多數決トハ例ヘバ判事五人ノ評議ニ於テ二人ノ判事ハ甲說ヲ主張シ三人ノ判事ハ各々異說ヲ採ルトセバ甲說ハ比較上多數說ナレドモ過半數ニアラザル如シ若シ右ノ如ク判事ノ意見三說以上ニ分レ各說ヲ主張スル判事ノ員數過半數ニ滿タザルトキハ過半數ノ意見ヲ作ル爲メニ民事ニ付テハ第二項ノ規定ニ依リテ處分シ刑事ニ付テハ第三項ヲ適用ス即チ民事ノ訴訟ニ於テ例ヘバ賠償額ニ付テノ意見三派ニ分レ甲說參百圓乙說貳百圓內說百圓ヲ主張シ甲說ノ主張者二人乙說二人丙說三人ト假定セバ何レモ七人ノ過半數ニ滿タザルヲ以テ此場合ニ於テハ最多額ノ意見卽甲說ヨリ乙說ニ合シテ四人ヲ得此四人ハ過半數ナルヲ以テ乙說ノ主張セル貳百圓ノ賠償額ヲ以テ過半數ヲ得タルモノトシ之ニ依ル刑事ニ付テモ過半數ニ至ルマデ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算スルナリ法律ガ此方法ヲ採リタル所以ハ蓋シ大ヲ主張シタル者ハ當然小ノ主張ヲモ包含スルモノト見ルコトヲ得ベキヲ以テ最大ノ說ヲ取ツテ次位以下ノ說ニ合同セシムルモ敢ヘテ其主張ヲ根本ヨリ覆ヘシタルニ非ルノミナラズ合議ト云フ以上多少ノ讓步ハ忍バザルベカラザレバナリ而シテ此方法ヲ以テ決スルノ要アルハ判事ノ意見三說以上ニ分レタルトキノミニシテ二說ニ分レタルトキハ何レガ過半數ナルベケレバナリ何ントナレハ裁判所ノ組織ハ三人五人七人等必ズ奇數ノ判事ヲ以テスレバナリ

○第百二十四條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

（一四五）判事ハ其裁判スベキ問題ニ付キテハ職務上必ラズ一定ノ意見ヲ發表セザルベカラズ其問題ニ對シテ沈黙ヲ守ルコトヲ得ズ又タ多數ノ意見ニ任カスト云フガ如キ不定ノ

意見ヲ持スルコトヲ得ザルモノトス

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程

○第百二十五條　裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域內ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ或ルヘク統一ヲ旨トシ特ニ裁判所及檢事局ノ開廳時間及開廷ノ時日ニ付訓令ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

（一四六）司法大臣ハ裁判所ノ裁判ニ干涉スルコトヲ得ズト雖モ其執務ヲ監視スルノ權ヲ有ス若シ夫レ檢事局ノ如キハ自己ノ機關ナレバ之ヲ指揮スルコトヲ得ルハ當然ナリトス

故ニ司法大臣ハ全國裁判所並ニ檢事局ニ對シ其事務取扱ノ標準ヲ指示ス例ヘバ第十一條ニテ區裁判所ノ事務分配ヲ爲スニ司法大臣ノ定メタル通則ニ從フコトヲ要スルガ如キ又第二十二條ノ地方裁判所ノ事務ヲ分配スルニ當リ從フベキ司法大臣ノ定メタル通則ノ如キ其一部ナリ而シテ其細目ニ至リテハ控訴院長及ビ檢事長ノ定ムル所ニシテ即チ各自ノ管轄區域內ノ裁判所及ビ檢事局ノ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及ビ檢事局ノ開廳時間及ビ開廷ノ時日ニ付キ訓令ヲ發スルコトヲ得ベシ

大審院ハ全國唯一ノ最高裁判所ナレバ其執務ノ標準ハ其自ラ定ムル所ニ任カセ司法大臣之ヲ指揮スルコトナシ然レドモ此場合ト雖モ司法大臣ノ監視ハ仍之ヲ免ルベカラザルヲ以テ其規則ヲ實施スル前ニ司法大臣ノ認可ヲ受ケザルベカラザルモノトス

第五章　司法年度及休暇

○第百二十六條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終

(一四七)司法事務ノ整理ヲ爲シ及ビ其成績ヲ明カニスルガ爲メニハ必ラズ時日ノ一定ノ分界ヲ定メザルベカラズ其時日ノ分界ヲ指シテ司法年度ト云フ而シテ社會ノ事物ハ多クハ一年ヲ以テ循環スルガ故ニ司法年度モ亦タ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハルモノトス裁判所並ニ檢事局ニ通用スルモノナリ本法第十二條第二十四條ニ所謂司法年度ハ本條ノ規定ニ從フベキモノトス

○第百二十七條　裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

(一四八)本條ハ裁判所ノ休暇ヲ定メタルモノニシテ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハルモノトス是レ右期間ハ暑中ナレバ裁判官其他ノ吏員ニ休息ヲ與フルガ爲メニ特ニ休暇ヲ與ヘクルモノナリトス

檢事局ニ休暇ナキモノトス蓋シ犯罪ノ檢擧ハ暑中ト雖モ廢止スベカラザルモノナレバナリ故ニ本條特ニ裁判所トノミ規定シ檢事局ヲ省キタリ

○第百二十八條　休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ着手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ着手セズ

第一　爲替手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關ル請求

第二　船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求

第三　財産差押事件

第四　住家其ノ他ノ建物又ハ其或部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五　養料ノ請求

第六　保證ヲ出サシムルノ請求

第七　取掛リタル建築繼續ニ關スル事件

第八　前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直チニ着手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

（一四九）休暇中ニ於テハ裁判所ハ一般ノ事務ニ付テハ其既ニ着手シタルモノハ中止シ且新ナル訴訟ニ着手セザルナリ然レドモ本條第一號乃至第八號ニ掲グル請求及ヒ事件ノ如キハ何レモ緊急ヲ要スルモノニシテ休暇ノ終ハルマデ猶豫スベカラザルモノナレバ特ニ休暇中ト雖モ之ヲ受理シ又其既ニ着手セシ者ハ完了スベキモノトス

本條各號ニ記載スル事項ハ別ニ説明ヲ要セザルベシ唯ダ右ハ所謂例示的ノ記載ニ過ギズシテ決シテ制限的ノモノニアラズ即チ右第一乃至第七ニ掲クル事件及ビ請求以外ニ於テモ直チニ着手スベキ緊急ノモノト認メタルトキハ同ジク休暇中ト雖モ取扱フコトヲ得ベキナリ

○第百二十九條　休暇中ニ拘ハラズ刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件並ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ベキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

（一五〇）前條ニ示シタルモノヽ外尚ホ休暇中取扱フベキ事件ハ刑事訴訟非訟事件裁判執行破産事件其他民事訴訟法ニ依リ證書訴訟爲替訴訟督促手續等ノ如キ略式ノ手續ヲ取扱フコトヲ得ベキ一般ノ訴訟等ナリトス蓋シ是等ノ事件ハ人ノ自由名譽ニ關シ或ハ權利義務ニ關シ寸時モ猶豫スベカラザレバナリ

○第百三十條　合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始アル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

(一五一)休暇中事務ヲ取扱フ爲メ休暇部ヲ設クルハ合議裁判所ノミニシテ其部數ノ如キハ制限ゼス

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前ニ裁判所長之ヲ定ムルモノトス而シテ第二十三條ニ規定セル或ル部ニ於テ着手シタル事務ニシテ休暇ノ始ニ臨ミ未ダ終結ニ至ラザルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキハ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルノ便方ハ此休暇部ニモ亦之ヲ適用スルモノナリ

二人以上ノ判事アル區裁判所ニテハ監督判事ハ休暇中ノ事務取扱方法ヲ定ムルモノトス而シテ一人ノ判事ナルトキハ自ラ之ヲ定ムベキハ言フヲ俟タザル所トス

第六章　法律上ノ共助

○第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

(一五二)本條ハ裁判所ノ法律上ノ補助ヲ定ム蓋シ裁判所ニハ其裁判權ヲ行フベキ一定ノ土地ノ區域定メラレ其區域外ニ於テハ裁判權ヲ行フ能ハザルニ拘ハラズ他ノ裁判所ノ區域ニ於テ或ル取調等ヲ爲スノ必要アルコト往々アリ於是カ其他ノ裁判所ノ補助ヲ假ルコトヲ要ス而シテ其ノ如何ナル場合ニ於テ補助ヲ假ルベキカハ民刑訴訟法又ハ特別法ニ定ムル所ナリトス

法律上ノ補助ノ事務ヲ取扱フベキ裁判所ハ特ニ法律ニ於テ指定シタル場合ハ其裁判所ニ取扱フベキモノナレドモ法律ニ於テ特ニ指定セザルトキハ其交渉ヲ要スル地ノ區裁判所ニテ之ヲ取扱フモノトス

○第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

(一五三)法律上ノ補助ヲ爲スハ彼此ノ職司同一ナルヲ要ス故ニ裁判所ハ他ノ裁判所ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

○第百三十三條　裁判所書記課モ亦其權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

(一五四)書記課ニ在テハ其權内ノ事件ノミナラズ其配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付テモ亦互ニ法律上ノ補助ヲ爲スベキモノトス

第四編　司法行政ノ職務及監督權

(一五五)本編規定スル所ノモノハ司法行政ノ職務及ビ監督權ニアレバ先ヅ大體ニ於テ司法行政ノ如何ナルモノナルヤヲ説明シ置クノ必要アリ司法行政トハ司法ト行政トノ二者ヲ云フニ非ズ統治權ノ作用ヲ立法行政司法ノ三權ニ區別スルコト通例ナルガ司法行政ナルモノハ其三權ノ一タル行政ノ部類ニ屬シ司法ニ關スル行政ヲ云フナリ故ニ之ヲ司法ニ比スルニ其施行ヲ司ル機關ヲ異ニシ司法ハ天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行ヒ政府ノ干渉ヲ許ルサズト雖モ司法行政ハ政府ニ屬シ裁判所ハ其監督ヲ受ケテ之ヲ執行ス故ニ司法大臣ハ前數編ニ掲ケタル判事檢事ノ補職試補書記ノ任免豫審判事ノ選任其他裁判所並ニ檢事局ノ執務標準ヲ定ムルノ外更ラニ司法ニ關スル官吏即チ執達吏公證人登記官吏會計官吏及ビ廷丁ヲ監督シ及ビ司法事務ノ施行ヲ監視スルノ權ヲ有ス是レ所謂司法行政ニシテ彼ノ民事刑事ノ審判ヲ實質トセル司法ト全然其性質ヲ異ニスルヲ知ルベシ

○第百三十四條　合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長及檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

(一五六)司法大臣ガ前段ニ述ベタルガ如キ其職權ニ屬セル司法行政ノ職務ヲ行フニ付キテハ本條ニ定ムル官吏ヲ使用シテ之ヲ爲ス其官吏中檢事ハ固ヨリ司法大臣ノ機關タルモノナレバ其命ニ由ツテ司法行政ノ事務ヲ執ルベキハ當然職分ナレドモ判事ヲシテ其事務ヲ執ラシムル如キハ其理由ナキガ如クナレドモ若シ司法行政事務ノ全部ヲ擧ゲテ檢事ノ手ニ委スルトキハ判事ノ一擧一動悉ク檢事ノ監察ヲ受ケ其獨立ヲ壞損スルノ恐アルヲ以テ一二ノ行政事務ハ判事ヲシテ之ヲ管掌セシムルニ至レリ

○第百三十五條　司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一　司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二　大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三　控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域內ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四　地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域內ノ區裁判所ヲ監督ス

第五　區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所々屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六　檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七　檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域內ノ檢事局モ監督ス

第八　檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

（一五七）本條ハ司法大臣以下各吏員ノ有スル司法行政上ノ監督權ノ限界ヲ規定シタルモノニシテ條文明白ナレバ別ニ説明セズ唯ダ右規定中注意スベキ事項三アリ卽チ控訴院長ハ其控訴院ノミナラズ其管轄區域内ノ下級裁判所ヲモ監督スルニ拘ハラズ大審院長ハ單ニ其院ヲ監督スルニ止マル換言スレバ司法行政ノ監督權ニ關シテハ控訴院長ハ大審院長ヨリ大ナル權限ヲ有スルコト其一ナリ區裁判所ノ監督判事ノ督監權ハ其裁判所々屬ノ書記及執達吏ニ及ブニ止マリ區裁判所判事ニ及バズ區裁判所判事ハ却ツテ地方裁判所長以上ノ監督ノ下ニ立ツコト其二ナリ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ此裁判所々屬ノ或ル官吏ヲ監督スルニ拘ハラズ區裁判所檢事ニ此督監權ナキコト其三ナリ

○第百三十六條　前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一　官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二　官吏ノ職務上ト否トニ拘ハラズ其ノ地位不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辨明ヲ爲スコトヲ得セシムベシ

（一五八）本條ハ前條ニ示セシ司法行政ノ監督ノ如何ナルモノナルカヲ規定セルモノニシテ第一ハ判事檢事其他ノ司法ノ吏員ガ其職權上ノ事務ヲ取扱フニ當リ不適當ニ取扱ヒタルカ或ハ其取扱ハ不適當ナラザルモ十分ナラザルトキ之ニ注意ヲ促シ及ビ適當ニ其事務ヲ取扱フベキヲ訓令スルコト第二ハ判事檢事ハ職務上ノ責任ヲ負フノミナラズ其職務ノ執行ニ關スルト否トニ拘ハラズ其地位ニ不相應ナル行狀アレバ乃チ其官吏ノ辨明ヲ聽キタル上ニテ之ニ向ツテ諭告スルコトニアリ共ニ懲戒ノ處分トハ異ナリ其監督權行使ノ方

法ニ外ナラズ

○第百三十七條　第十八條第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クル官吏中ニ之ヲ包含ス

（一五九）第十八條ニ於テ區裁判所ノ檢事ノ事務ヲ取扱フコトヲ得ベキ者ヲ警察官憲兵將校下士又ハ林務官トシ又タ司法大臣ノ命ニ依リ適當ナル場合ニ於テ檢事ヲ代理スベキ者ヲ區裁判所判事試補若クハ郡市町村ノ長トシ第八十四條ニ於テハ檢事ノ手足ナル司法警察官ナルモノヲ定ム是等官吏モ其職務上ニ於テハ同ジク第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督權ニ服從セザルベカラズ

○第百三十八條　裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第百三十六條ヲ適用スル能ハザルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

（一六〇）判事檢事其他裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ其職權ノ執行適當ナラザル者又ハ其擧動ノ身分不相應ナル者ニ對シ第百三十六條ニ從ヒ諭告又ハ訓令ヲ發セントスルモ之ヲ發スル能ハザルトキハ懲戒法ニ從ヒ訴追スルコトヲ得ヘキナリ

○第百三十八條　前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シ起リタ請求ニ付キ其ノ請求ヲ滿足セシムル爲メ之ヲ執行スルコトヲ得ズ

（一六一）判事又ハ檢事カ其官吏タルノ資格ヲ以テ爲シタル事例ヘバ判事ガ違法ノ裁判ヲ爲シタルガ如キ檢事ガ不當ノ搜査ヲ爲シタルガ如シ又一已人トシテ爲シタル不法ノ處爲ニ對シ人民ヨリ請求アリタルトキハ須ラク通常訴訟法ノ規定ニ從ヒ其當否ヲ判決スベク決シテ其請求ヲ滿足セシムルガ爲メニ前數條ニ掲ケタル監督權ヲ適用シテ訓令諭告ヲ發

シ又ハ懲戒處分ヲ請求スルコトヲ得ザルナリ然ラザレバ行政權ヲ以テ司法權ヲ蹂躙スルモノナレバナリ

○第四十條　司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告特ニ或事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若ハ拒絶ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處ス

(一六二)本條ハ司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告ハ其監督長官ニ爲スヘキモノナルトコヲ定メタルモノナリ即チ區裁判所ノ取扱ニ對スル抗告ハ地方裁判所長ニ之ヲ爲シ地方裁判所ノ取扱ニ對スル抗告ハ控訴院長ニ之ヲ爲シ控訴院ノ取扱ニ對シテ直チニ司法大臣ニ之ヲ抗告スベキモノトス此抗告ヲ大審院長ガ爲サヽルハ大審院長ハ其院ノミヲ監督スルニ止マレバナリ

○第百四十一條　裁判所及檢事局ニ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アル時ハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

(一六三)本條ハ司法大臣又ハ監督權ヲ有スル判事檢事ヨリ立法上ノ問題ニ關シ又ハ司法行政上ノ事項ニ付テ其適否等諮問セラレタルトキハ裁判所又ハ檢事局ハ各自其意見ヲ述ブベキコトヲ定ム

○第百四十二條　司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

(一六四)本條ハ司法官廳民事ノ訴ヲ受ケタルトキ其ノ代表者ヲ定メタルモノニシテ例ヲ以テ之ヲ示サバ地方裁判所ニ對スル民事ノ訴ヲ控訴院ニ爲シタルトキハ其控訴院ノ檢事局ハ地方裁判所ヲ代表シテ訴訟ノ相手方ト爲ルモノナリ

○百四十三條　此ノ編ニ於ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判

事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スコトナシ

（一六五）立法行政司法ノ三權ガ各別ノ機關ノ依リテ行ハレ別異ノ畛域ヲ有シ互ニ之ヲ浸犯スルコトナキヲ立憲政體ノ本義トス然ルニ本法ニ於テハ前數編ニ於テハ專ラ司法權ノ獨立ヲ確固ナラシムルガ爲メニ種々ノ規定ヲ設ケタルト同時ニ本編ニ於テハ司法行政ノ權ヲ以テ政府ニ屬セシメ之ヲシテ司法權ノ運用ヲ監視セシム故ニ政府ハ其行政監督ノ權ヲ以テ裁判所ニ臨ミ以テ司法權ノ獨立ヲ害スルコトナキヲ保セズ是ヲ以テ前各條既ニ司法行政監督權ノ範圍ヲ制限シタルニ拘ハラズ尙ホ本條ヲ以テ政府ハ司法行政監督ノ權ヲ以テ判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ボシ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得ザルベキ旨ヲ定メタリ是レ司法權ノ獨立ヲ尊重スルニ於テ實ニ當然ノ規定ナリト云フベシ

附　則

○第百四十四條　此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此法律ニ牴觸スト雖モ當分ノ內仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

（一六六）此ノ法律ノ施行ニ關ル規程ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ勅令省令等ニ依ルコトヲ許ルサズ又タ法律ノ變更ハマタ法律ニ依ラザルベカラザルヲ以テ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ牴觸スルモ尙ホ當分ノ內効力ヲ有セシムベキモノハ更ラニ法律ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ要ス明治二十三年三月十九日法律第二十二號裁判所構成法施行條例ノ如キ其一ナリ

裁判所構成法講義終

京都帝國大學 平山整治君 太田二平君 大道良太君 合著

菊判形洋裝美本 正價金五拾錢

◉理論用 現聽行 **行政警察法要解** 全

◎非常減價金參拾五錢 外に遞送料金六錢を要す

◎本書ハ實論實際ニ適合スル最モ詳細ノ著述ニシテ警察官タル者ハ座右必須ノ良書ナリ

大阪控訴院判事法學士尾古初一郎先生序文 大阪控訴院判事法學士磯部淳先生校閲 新雲 福井醇君講述（逐條講義）

紙數七百頁クロース製洋裝頗美本金文字入 正價金壹圓

改正 **民事訴訟法逐條講義** 全

◎特別價金六拾錢 外遞送料拾貳錢 小包送十里迄五錢百里迄八錢

◎本書ハ福井醇氏カ得意ノ筆ヲ揮ヒテ各條ニ解義ヲ與ヘタルモノニシテ攻法家ノ參考書トシテハ大ニ好評アリ今回特ニ懇請シテ購求ニ應スヘシ

改正 **刑事訴訟法逐條講義** 全

法學士 多喜澤秀雄先生講述

逐條講義

○紙質純良印刷鮮明且洋裝假綴美本金文字入

完一冊

◎豫約價金貳拾六錢

但十冊以上一括の申込は一冊金貳拾貳錢（別に郵税四錢を要す）切手代用一割增

◎本書は必らず前金にあらざれは送本せず又都合に依り代金小包引換にて送本を請す

着本の上送金を請す

外遞送費金四錢を要す（小包送は其實費を要す）

發行所 京都市上京區竹屋町通夷川西入第一番戸 **日本同盟法學會**

明治三十五年七月廿九日印刷

同 年七月三十日發行

發行者 佐藤正夫 京都市河原町通夷川北入二十四番戸

同 河合卯之助 京都市寺町通二條南入十三番戸

編輯者 福富薫三 京都市二條通寺町東入七番戸

印刷者 井出時秀 京都市木津屋橋通堀川東入三十四番戸

發行所 日本同盟法學會 京都市二條通寺町東入七番戸

（定價金貳拾貳錢）

82 507

大賣捌所 京都市二條通寺町東入七番戸 成文館

同盟出版豫約大募集

◉本書は巡査看守考査受驗に於ける世間唯一の資料あり

◉本書は從來各府縣に於て施行せし考査試驗の問題凡二百餘件を加へ在京都帝國大學の專門名士に請ひ平易の文章を以て簡明適切適切の問題十餘件を加へ在京都帝國大學の專門名士に請ひ平易の文章を以て簡明適切なる解答を附したるものあり決して世間流布の試驗的問答集の比にあらず當該吏員に於ては空前の良師友にして又た絶後の觀ある可し

◉本書は固より同盟出版のことにして營利の主旨にあらざるを以て其代價は非常の低廉即ち一冊僅々拾五錢（外郵税貳錢）とし且つ送金の便利を慮り郵便切手の代用を諾す即ち本書發行の微衷推して知る可し

判事法學士　淺田賢介閲
日本同盟法學會調査局編纂

巡査看守

考査受驗問答集　完

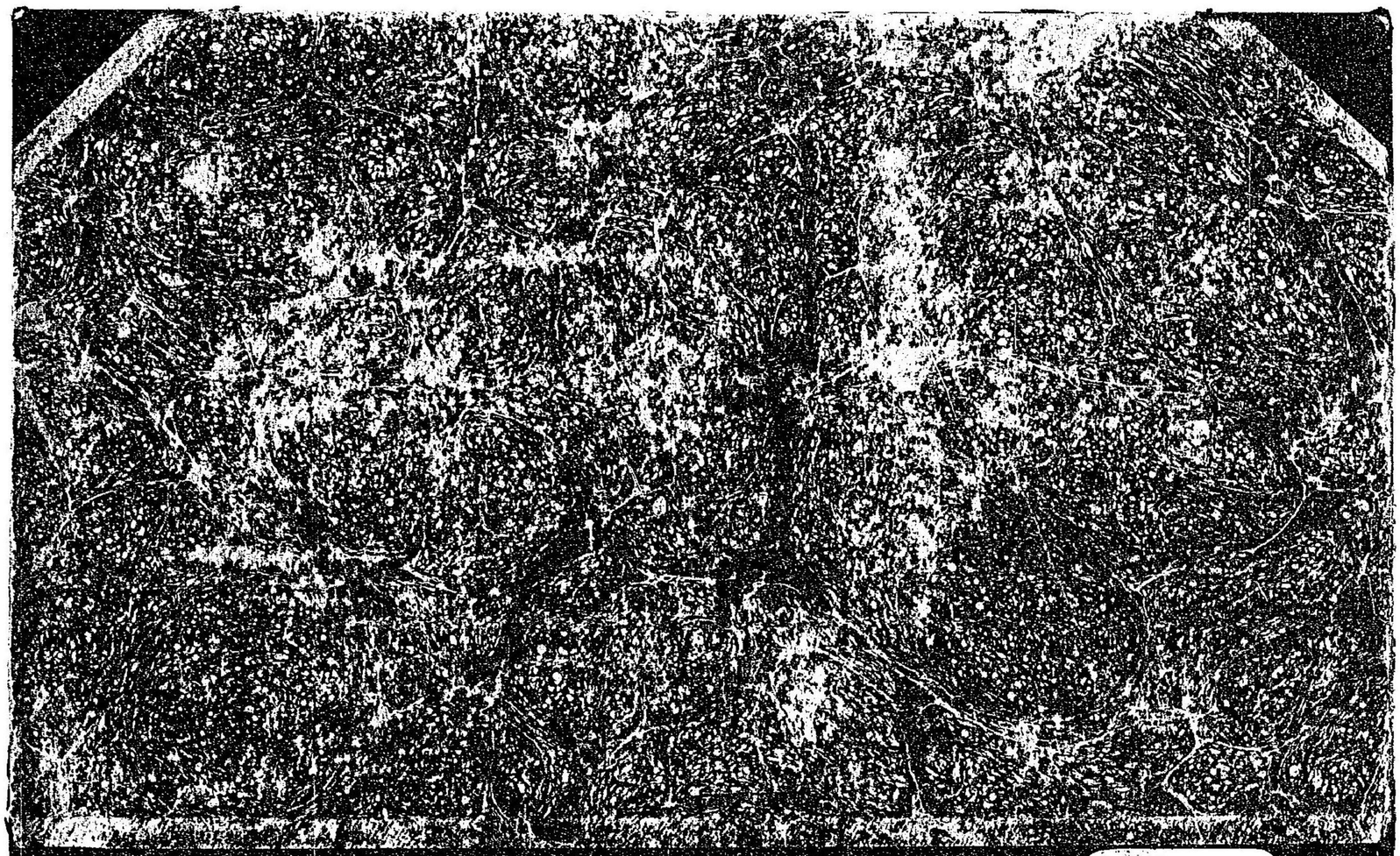
◉非常減價豫約金拾五錢
外郵税貳錢を要す
切手代用不苦
可成貳錢切手を要す

但十冊以上一括申込は一冊金拾參錢の割（二十冊以上は壹冊拾壹錢の割何れも外に郵税貳錢を要す）にて請求に應す

○本書代價は僅少の額に付き何人に限らず前金にあらざれは送本せず
但一括三十冊以上申込の分にして其署の會計課の送金保證書あるときは特に着本の上送金することを承諾す

○本書の申込は必らず本會若は成文館宛たる可し

發行所　京都市上京區二條通寺町東入　日本同盟法學會

大賣捌所　同　成文館

82
50